

ふるさと
海来

第二十七輯



潮来市郷土史研究会



目次

古代日本の謎を探る	植田義継	1
竹内栖鳳と水郷潮来	吉川俊	5
開 発 哀 歌 ^{エレジー}	小沼正司	11
交通よもやま話	吉川俊	14
二十三夜尊の経歴其の四	秋永守	16
私の高野山物語	岡本保美	18
稻荷様の思いで	柏崎一雄	19
大洲の河童	吉川俊	20
民 俗 編 — 年中行事について —		
祭り行事調査		22
講 と は	山澤幸次	27
古高のササラ舞と人形送り	山澤幸次	28
講について	窪谷浩	30
諸行事調査		37





附 録

第一回 霞ヶ浦検定 ジュニア級問題	47
郷 土 誌 — 津知尋常小學校 —	53
ふるさと潮来十七号〜二十六号まで	71
編集後記		



古代日本の謎を探る

植田 義 継

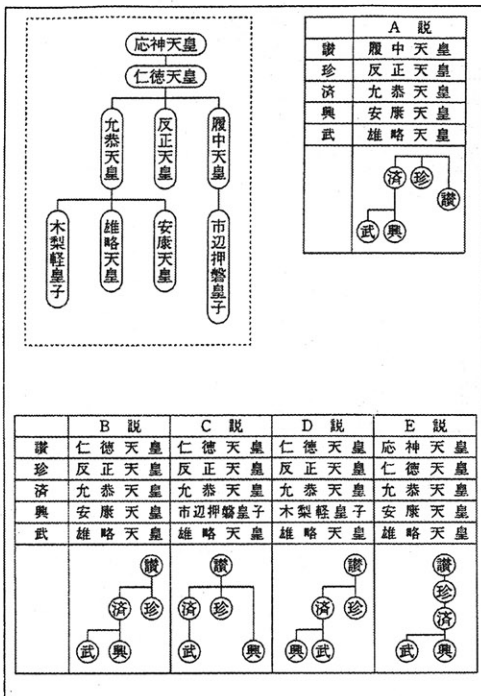
○統一国家の形成

日本の古代史には数多い謎があることは、歴史家の一致するところではあります。また、その部分が私たちの夢を膨らませ、歴史研究の意欲にも繋がっています。

日本の統一国家形成は、過去の一部の歴史家が主張してきた、倭国の女王である卑弥呼以来四世紀から五世紀にかけて、自然に統一されて大和朝廷が出来上がったという定説は私は間違いであると思います。国を統一する事業がそんなに容易く短期で達成できるはずはありません。古代の日本全国でも多くの勢力の衝突と戦いがあり、それを経て統一国家へと歩んで行ったことは間違いありません。日本の古代史を研究する上で、六世紀に編集された古事記、日本書記、各地風土記などの文献をもう一度、注意深く読み返す必要があります。

統一国家と天皇尊称在位などの関連性も含めて、整理をしながら説を展開して行きたいと思えます。現存する古代の文献が、前記の三記の書物であるならば、その以前の四世紀、五世紀あたりの日本国はどうなっていたかと考える時、この

表-I 倭の五王にかんする諸説



三記には若干の記述はありますが、その時代の文献として信憑性の最もあるものとしては、中国、韓国の書、墓誌、碑などに頼らざるを得ないと思えます。

韓国の宋山里で発掘された武寧王稜の墓誌に武寧王が五二三年に六十二歳で没したことが記されています。これを逆算すると、武寧王の生まれた年は四六二年ということになります。この百済の武寧王のことが日本書記の雄略記に同じ表現で年代も一致して出てくるのです。この年代で日本と韓国でこのように最も信用される年代証明がなされています。

古代史ではこの時代の倭国（日本）の国王を五王時代だとも表現しています。これは、中国の宋王朝へ使者を送った、讚、珍、濟、興、武の倭国の五人の王を指します。四二一年から十回にわたり宋に使者を送り、貢物を献上して、倭王としての称号を宋朝からもらったことが宋書に記されています。

五王の使者の数を述べてみると讚（四二一年、四二五年）珍（四三〇年、四三八年）濟（四四三年、四五一年、四六〇年）興（四六二年）武（四七七年、四七八年）の計十回に及んでいます。遣使期、天皇名、在位期間、続柄などを勘案し想定してみると、表ⅠのようなAとEの説が浮かんできます。これを見てみますと、安康天皇、雄略天皇、この二天皇は現在の歴史家の中では、ほぼ、間違いないだろうと比定されていますので、ここでは述べませんが、応神、仁徳天皇と履中、反正天皇、允恭天皇の五天皇の在位年代の比定がむつかしく現在も論議されており、これに少しふれておきたいと思えます。

応神天皇は仲哀天皇の第四皇子で母は神功皇后です。三韓征伐に赴いた皇后は臨月で、その途上に筑紫の国で生まれたのが、応神天皇であると言われています。生年月日は仲哀天皇九年（二〇〇年）十二月十四日誕生。即位は応神天皇元年（二七〇年）正月一日、没年は応神天皇四十一年（三一〇年）百十一歳であると言われています。

つぎに、仁徳天皇は、父は応神天皇で神功皇后摂政五十七

年（二五七年）に誕生、即位は仁徳天皇元年（三一三年）同八十七年（三九九年）崩御。百四三歳。

履中天皇の生誕年は不明ですが、父は仁徳天皇、仁徳天皇三十一年（三四三年）正月十五日立太子と言われ履中天皇元年（四〇〇年）に即位して同六年（四〇五年）崩御していません。崩御年齢不明。

反正天皇も父は仁徳天皇、履中天皇二年（四〇二年）立太子、反正天皇元年（四〇六年）即位、同五年（四一〇年）に崩御している。崩御年齢不明。

允恭天皇も父は仁徳天皇、允恭天皇元年（四十二年）に即位、同四十二年（四五三年）崩御。崩御年齢不明。

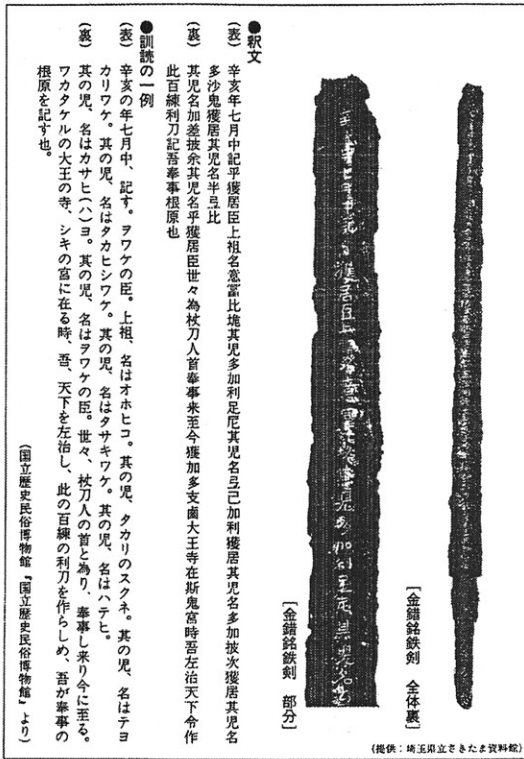
以上述べてきた五名の天皇は仁徳天皇は百十一歳、応神天皇は百四三歳まで生きており想像以上の長命であると思えます。履中、反正、允恭の三天皇は生年月日、没年齢は不明でありこれも不思議な謎につつまれています。そのいずれの天皇の埋葬地も大阪府内に比定されており、畿内政権（難波京）時代の墳墓であることが推定されます。

○古代日本列島の勢力

古代日本列島の五世紀頃の勢力図はどのようになっていたかを考える時、まだ、大和朝廷の政権が確立されていない時代であったことは確かであり、統一国家を目指す前段階として、各地の有力部族達が勢力争いを行っていたことが想像で

表-II

埼玉・稻荷山古墳出土の金錯銘鉄剣



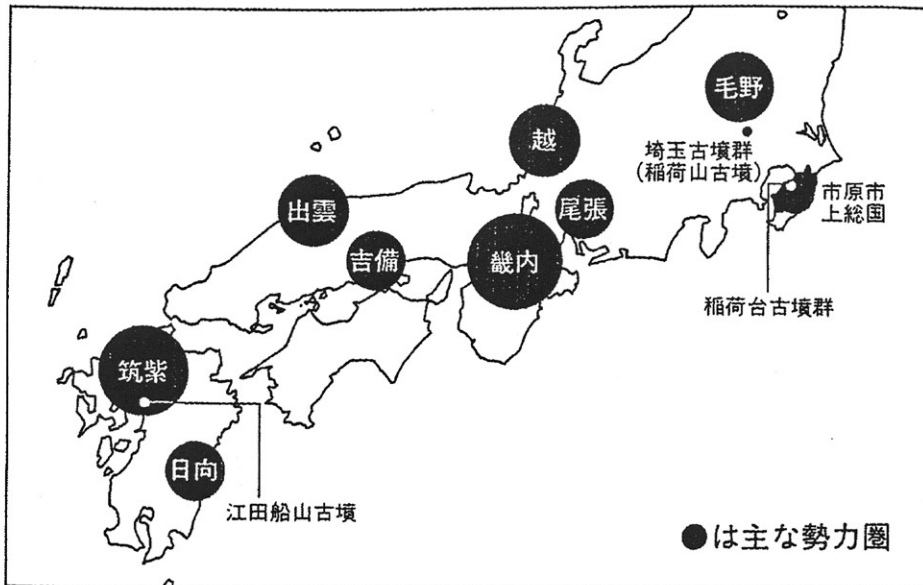
きます。その中心的な役割を担い、精力的に統一国家実現を図ったのが、(2)前記の五王の一人「倭王武」こと雄略天皇(ワカタケル)であったのです。

雄略は激烈な気質で全国の立ちはだかる敵をつぎつぎに撃破して行きます。五世紀の日本には図Ⅲに示すような勢力圏があったと思われます。当時の古墳や遺跡から発掘された甲冑や刀剣類からこれはかなり、正確に証明されています。

稻荷台古墳(千葉県市原市) 当時は上総国から出土した王賜の鉄剣や稻荷山古墳(埼玉県) 毛野から出土した鉄剣、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌の鉄剣にその時代の文字が刻印されています。表Ⅱ

表-III

五世紀の日本列島



畿内には河内、三輪山、大和の葛城を包括して雄略が率いる河内政権がその他の吉備、出雲、筑紫、日向これらを次々と叩き従属させて行ったのです。

そして、越国、尾張、

東国の上総、毛野国も畿内の巨大豪族の連合勢力下に組み込まれます。これは、五王すなわち讃、珍、濟、興の努力、勇敢な戦いを展開した雄略(武)の実行力これらにより統一国家への歩みを大きく踏み出して行ったのです。

その時代の倭国(日本)の国力は朝鮮の高句麗、新羅、百濟より下位に見られていました。宋書によるとこの雄略の戦い振りと実力を宋朝は認め四七八年には安東將軍から安東大將軍に四七九年には、鎮東大將軍。五〇二年には征東將軍の名称で呼ばれています。このように見てくると古代日本の統一国家への歩みは、宋書と「日本書記」の記載から立証ができるように、四世紀の各地の部族国家から中央集権国家(統一国家)へと移行して行く重要な時期がこの五王時代であったことは否めないような気がしてなりません。



第二十一代
雄略天皇

○国家成立の謎を探る興味深い六世紀〜七世紀

日本国がしっかりした統一国家の形を整えるには、二十六代継体天皇(四五〇〜五三一年)以降の六世紀くらいであると私は推測しています。その頃には大和朝廷というふうな形がつくられ「古事記」「日本書記」各地「風土記」「万葉集」などが編纂されてきます。そして、鹿島神官、香取神宮、大生古墳群、常陸国風土記、万葉集、その時代の常陸国(茨城県)の国司は誰であったかなどの興味深い話は次回に書くこととします。

【引用文献】

- | | | |
|-----------|------------|--------|
| 日本書記上巻、下巻 | (株) 岩波書店 | 昭和四十二年 |
| 天皇家系譜総覧 | (株) 新人物往来社 | 昭和六十一年 |
| 天皇一二四代 | (株) 平凡社 | 昭和六十三年 |
| 上代文学研究事典 | (株) おうふう | 平成八年 |

竹内栖鳳と水郷潮来

吉川 俊

一 「ベニス」の月

県天心記念五浦美術館（北茨城市大津町）において、「水の都」を情趣豊かに表現した竹内栖鳳の「ベニスの月」――一九〇四年、高島屋資料館蔵が展示され、同館の主任学芸員・中田智則氏は次のように説明する。

世界遺産は一九七二年にユネスコにより制定されたが、現在、世界遺産となっている遺跡や古い街並みはそれ以前から描かれてきた。一九〇〇（明治33）年パリ万博視察のため渡欧した栖鳳は帰国後、ローマやベネチアに取材した作品を発表している。

「水の都」の名の通りベネチアは、118もの島が176の運河と400余りの橋で結ばれ、独特の景観を見せている。描かれているのは、街の中心を流れる大運河の河口にそびえる17世紀ゴシック建築の最高傑作サンタ・マリア・デッラ・サテール教会である。

水墨画を得意とした栖鳳の作品は、墨のぼかしを生かして湿気を含んだ空気まで感じさせるが、ここでも水に囲まれたベネチアが情趣豊かに表現されている。

約四カ月にわたりヨーロッパ各国を巡りながらもイタリアを多く取り上げたのは、古代から中世、近代にまで続く歴史と文化に裏打ちされたその街並みに、深い感興と普遍的な美を見出したからといえよう。それは、「世界遺産」という制度に関係なく、画家がその風景に心寄せていたことを物語っている。

潮来市あやめ一丁目12 JR鹿島線潮来駅の南方向、前川あやめ園の東側の常陸利根川沿い水神森に、「栖鳳先生来游碑」が建てられている。

二 栖鳳の生いたち

元来私の家は男子が私一人で、外に姉が一人あって、母は私が十四歳の時没し、親父ももう老年である。夫で料理屋のことやから非常に多忙で、実は私が画など止て、早く家業の方を相続せんなんのである。……ところがその家業を捨て画を習ひにゆくやから、親父や姉の機嫌が悪い、時には非常の極道息子のように叱られる。それを忍んで師匠のところへゆき、家に帰って来ると、多忙で晚餐など食へん。……それのみならず、また黒の被衣を着て七輪を煽ぐ、水を運ぶ、時には酔っぱらひの職人客などが台所へ来て、貴様はこゝの息子か水一杯くれなどとぼろくそにやられる。（中略）また時には献立を書く、剥物の彩色をする、行燈に画く、祭礼にな

ると筒衣姿で売った魚の帳つけて歩く——この様なことをいろいろ忍んで、親父と姉の気を和らげて、そして二階の画室で画を稽古した。ところがまたまた親父と姉とが私を呼び付けて、是非とも画を止いと非常に迫られたが、私はどうしても止ることは出来ん、死んでも止られんと、二階に上ったなりで二日泣続けてゐた。ハハハ、今思ふと全く横着で、だゞけ泣なので、それが為め親父もとうとう匙を投てしもうて、そして困った極道息子といふ感じなりで没してしもうた。然し今日になって願れば、姉が父を補けて家事に従事してくれた御蔭で、私が画の修業が出来たので、全く姉を親と思はなばならぬ。

(参考文献) 黒田天外『名家歴訪録』明治三十一年より

三 雅号「棲鳳」と「栖鳳」

「棲鳳」

当時雅号は師匠がつけたもので、その頃から言ふと師匠の号の一字を取ってつける習わしだったが棟領といふ人はその風習も好ましくないとして各自の姓と関連して号を選んでやるといふ新しい方法をとられた。それでわたしには「鳳凰は梧桐に棲ひ竹実を食ふ」といふやうな事が支那の古い本にあるといふので「棲鳳」とつけてくれた。

「栖鳳」

棟領門時代から、わたしは「棲鳳」の雅号を用ひてしましたが、欧州の見学を了えて帰つたのを機会として、棲の文字を栖に変へました。これはわたしが西の大陸に渡つて、未だ曾て経験しなかつた幾多の事象に触れ、わたしの生活に明らかになつた一つの転機があつた為に西洋の西の文字に変へて欧州見学時代に尊ひ経験と收穫とを記念することにしました。

(参考文献) 「栖鳳の言葉」より／

『日本近代絵画全集 卷十七 月報』

昭和三十八年一月

四 潮来風景

比較的近年私の風景画の材料に感興を覚えた地方は水郷潮来出島である。私は三度潮来へ出掛けた。その都度相当に長滞在をして(しま)つた。恐らく並な旅人は、鹿島・香取詣での道すがら、あの利根川と霞ヶ浦とで生れた潮来を見て、たゞだだツ広い、平凡な、魅し寧ろ退屈な水村風景なりと解釈するだらうが、画家として私があの水郷を舟に乗り、微に入り細に入つて見歩いてみると、至る所画趣に富んでいて飽きることを知らない。画趣豊かな地方を見歩くといふことは、画家にとつては、最上の幸福な生活なのである。(中略) 潮来出島と支那の揚州とはよく似通つてゐる。揚州は鎮江の対岸にある。揚子江による南支那平野で、川幅は三哩も

ある。無論対岸地点は瓜州で、この瓜州から曾て隋の煬帝が開鑿したといふ南北支那運輸の便のための運河を遡る。そこに揚州がある。動乱常なき支那の面趣に富める静寂水郷の仙境とも言へる。揚柳と草むらと農家と水流と……。揚州二十四橋。潮来十二橋。然もこの十二橋は支那風に片欄干である。そして揚州も潮来も女船夫で、亭主は農夫である。(中略) たゞ潮来は揚柳ではなくポプラである。これがまた画趣の上に別種な新鮮さを感じさせる。水郷平野の中に風に吹かるゝポプラが生えてゐるのは中々面白い。

私は毎日舟に乗り、スケッチ・ブックを抱へて潮来水路を見歩いた。そよ風の晴れた朝。無風の曇った午後。水に生えた葦原に沛然と豪雨が降りそそぐ。夕暮に月を見ながらこの葦原を漕ぎ分けて行く。これは全く支那画情緒そっくりで、若し明笛の音でも聴こえて来るなら、これは日本ではなく支那である。私はよく夕暮に、一隻の舟に農家の一族が牛もろとも乗込んで家へ漕ぎ帰るのを見た。また私は二隻の舟を列べて板を渡してその上へ高く藁を積んでゐるのを見た。それなども揚州そっくりである。水神を表示した一石の前に粗末な鳥居が建つてゐる。秋の夕暮、太陽は赤々と水郷平野の彼方に没して行く。そしてこの散り行くポプラと葦原に包まれた鳥居の部分から暗くなつて行く。オランダ画そっくりである。また梅雨期の煙雨の情も中々いゝ。その他、鴨の番小屋、若き夫婦の藻刈りの舟、畑を縫ふ水流と舟……。潮来

は日本の画家に豊富な画材を恵んでゐる。

(参考文献) 竹内栖鳳「潮来風景」より / 「文芸春秋」

昭和七年四月

(※ラインの部分「栖鳳先生来游碑」に刻まれている。)

五 栖鳳の言葉

潮来風景

わたしは潮来が大好きである。連日舟に乗り、写生帳を膝の上に載せて潮来水路を見歩く。そよ風の晴れた朝。無風の曇った午後。場合によつては水に生えた葦原に沛然と豪雨が降りそそぐ。夕暮れには月を眺めながらこの葦原を漕ぎわけて行く。これはまったく支那情緒あるいは支那画の気分そっくりであつて、もし明笛の音でも聴こえてくるなら、それは日本ではなく支那である。わたしはよく夕暮れに、一隻の舟に農家の一族が牛もろとも乗り込んで漕ぎ帰るのを見た。また二隻の舟を並べて板を渡し、その上に高く藁を積んでゐるのを見た。これなども揚州そっくりである。水神を表示した一石の前に粗末な鳥居が建つてゐる。わたしは舟を止めて写生する。そして秋の夕暮れなど、太陽は赤々と平野の彼方に沈みいき、散りいくポプラと葦原に包まれた鳥居の部分から暗くなつていく。それは和蘭画そっくりである。また梅雨期の煙雨の情もなかなかよろしい。

その他、鴨の番小屋、若き夫婦の藻刈りの舟、畑を縫う水

流と舟。潮来は日本画家に豊富な画材を恵んでいる。(竹内逸編)

(注) ※武内 逸

一八九一年に竹内栖鳳の長男として京都に生まれる。

本名、逸三。早稲田大学文学部中退。

著書「支那印象記」「浴室風景」「栖鳳閑話」

「栖鳳芸談」ほか

六 栖鳳の画歴

第5回展に〈雨〉、第7回展に〈絵になる最初〉、第10回展に〈日稼〉、第11回展に〈河口〉を出品している。この〈河口〉は静岡県蒲原付近の風景である。この頃より栖鳳は山に囲まれた京都の生活に窮屈を感じ出した。題材は漁り尽くしている。風景のひとつ取っても京都では道具立ちが揃い過ぎ、とかく因習的な構図になりがちになるのを嫌った。〈河口〉は関東の漠とした平野風景に新鮮さを見出だした最初の作であった。このことは潮来での制作に展開していくことになるし、後年、湯河原へ籠る日が多くなったのも、長年の坐業からきた腰部の神経痛の治療の意味もあったが、京都での生活による制作の不自由さや身辺の煩を嫌ったのも一因だろう。そして〈河口〉発表の翌年、大正八年(一九一九)栖鳳五十六歳のとき、帝国美術院が創設されてその会員を拝命し、文展は帝展と改称された。・・・中略・・・

一方世間では文展、帝展につれ各種の展覧会が活況を呈し、人々の美術への関心は高まっていた。当然、百貨店の美術部や一般美術商が活躍を始める。当時の日本が、日清・日露の戦役、第1次大戦を経て世界的進出を果たし、それにもなう経済界の好況がそこに反映していた。三越百貨店美術部が大正13年、第1回淡交会を開催したのもそうした時期であった。横山大観(一八六八〜一九五八)、川合玉堂(一八七三〜一九五七)の両画伯と栖鳳3人淡交の意味であった。そしてその第1回展に〈斑猫〉〈城址〉の2作を出品している。

以後、春紅会、日本綜合展と会名は違ってもこの三越の美術展には死の前年まで18年間出品し続けている。〈宿鴨宿鴉〉〈潮来小暑〉〈惜春〉〈晚鴉〉〈松上白鷺〉〈花に蔵〉〈支那風光絵図〉〈草相撲〉〈松魚〉〈水郷〉〈しぐるる池〉、その他あわせて30点の制作がある。・・・以下省略・・・

(参考文献) 竹内栖鳳・上村松園 現代日本美術全集 13
集英社 一九七三年九月二十八日初版発行

七 素顔の栖鳳

「食事の話」

わたしは小食である。むろん、わたし自身、小食であると言ひ張つても、アテにならない。

近頃わたしは新聞や雑誌で、栖鳳翁と書かれてゐる。長寿の仲間入りをしてゐるらしい。小食が長寿と関係があるかど

うか、それはわたしにはわからない。

わたしの現職は帝国美術院会員だけで、それも年一回の会議に顔を出すだけのことである。然し、文展開催当時から帝展へ、わたしはかなり煩雑な生活を送って来た。東京へ出ると、展覧会の鑑査や審査、来客や招待。然もどうかすると、その煩雑な生活の中に、約束上どうしても画を描かなければならないこともあった。従つてわたしの旅舎生活は、朝は相当早く、夜は随分遅かつた。その旅舎のカミさんはかう言つた。「私の方へかうして沢山のお客がお泊まりになります。先生ほど小食の方は滅多に御座いません」この言質によつて、わたしは立派に小食党に所属してゐる。

(参考文献) 竹内栖鳳「涼台小話」より／

『文芸春秋』昭和八年六月

八 栖鳳の旧宅跡

一篤志家が太平洋戦争の死者200万人の霊を弔うため建立した高さ34mのコンクリート製の霊山観音の近くに、近代関西画壇の第一人者竹内栖鳳の旧宅跡と碑がある。栖鳳は幸野楳嶺こうのばいに入門、巨匠となり多くの俊秀を育てた。邸内に樹齡700年の人丸桜がある。

(参考文献) 京都府の歴史散歩(上)

新版 新全国歴史散歩シリーズ26

山川出版社

九 栖鳳の作品

●潮来小暑

一九三〇年(昭和五年) 絹本着色

1幅 68・0×86・7cm 山種美術館蔵

栖鳳はいたく潮来に愛着していた。中国の揚州に似ている点も彼には懐かしさがあつたのだらう。潮来取材の作品は相当の数に上る。水墨画(水村)や(水郷)、俗謡入りの粗画その他である。そして本作は潮来題材の正面切つての風景画である。前景に畑があり、中景に農家があり、上部遠景の幽かな帆船と遠山とが樹間から見えている。つまり構図の仕組が整つていて、寂しさや静けさよりも、青と藍との小暑の鬱然さであつて、微かに遠景において涼しさを現わしている。そして舟上の赤牛は画面効果と潮来風情とを兼ねている。むろん本図の場合、ほとんど本図同様の実景が粗略に写生帳に写してある。第6回淡交会展出品。

●潮来風情

一九三五年(昭和十年) 頃 紙本着色

一面 27・5×24・3cm

色紙に描いた作品である。前景の草むら、1本の樹、遠くの一軒家の村家、そしてその彼方に省筆で遠山が描かれている。一艘の舟と女舟夫とだけやや強調されている。色紙だが

よく潮来の風情が現れている。潮来へは栖鳳は度々出かけているし、長逗留して、連日その風景を見歩いてた。

●春郊帰牧

一八九三年（明治二十六年）紙本淡彩

衝立 88・5×99・3cm

牛背の牧童にも〈和暖と〉同じ性質の平和がある。栖鳳の作品にはたいへい平和がのぞいている。多くの潮来出島の風景画にも平和が溢れている。やはり栖鳳は自然派の作家であろう。摂政宮御成婚京都府献上作品。

作品解説（執筆者 武内 逸）

本作を眺めていると明治の平和な時代が偲ばれる。栖鳳は生来頑健ではなかったので始終医師の厄介になった。その医師小林久太郎氏の依頼によって玄関用の衝立に描いた作である。これ以前の作品にはどうかすると先者達からの借用が目立つこともあるが、本作はもはや栖鳳調の作品になっていく。むろん当時はこうした風景は京都の郊外ではたやすく実見することが出来たのだし、牧童を軽く牛の背に乗せた点に田園の麗らかさと、たそがれ近く村へ帰る詩趣とが現れている。

（参考文献）竹内栖鳳・上村松園 現代日本美術全集 13

（集英社）

一九七三年九月二十八日初版発行

一〇 栖鳳の年譜

○元治元年十一月二十二日、現在の京都市中京区御池通油小路西入ル森ノ木町に川魚料理屋「亀屋」（通称「亀政」）を営む竹内政七、きぬの長男として生まれる。本名は恒吉。

○明治十年（満年齢・十三歳）四条派の土田英林について絵を学び始める。母きぬ没。

○明治十四年（十七歳）初秋、四条派の幸野楳嶺の私塾に入る。門、師から「鳳凰は梧桐に棲み、竹実を食う」の故事により「棲鳳」の号を受ける。

○明治三十三年（三十六歳）パリ万国博覧会に〈雪中躁雀〉を出品。また、農商務省および京都市よりパリ万国博覧会の視察を命ぜられ、八月より渡欧。フランス、イギリス、ベルギー、オランダ、ベルリンなどを巡遊する。コロニーやターナーの作品に出会い感銘を受ける。滞欧中より「栖鳳」の号を使い始める。

○明治三十四年（三十七歳）二月、欧州より帰国。第七回新古美術展の審査員として〈獅子〉を「栖鳳」の号で出品する。ライオンを描いた作品は話題をよび一躍時代の寵児となる。

○昭和二年（六十三歳）五月、潮来を初めて訪れる。

○同年十一月に潮来を再訪（翌年秋にも）。

○昭和十二年（七十三歳）四月、この年に制定された第一回

文化勲章の受章者となる。(横山大観も同時受章)

○同年六月、帝国芸術院官制が發布され、帝国芸術院会員となる。

○昭和十七年(七十八歳)一月、肺炎を患う。六月、陸軍省依嘱画(宮城を拝して)(絶筆)を揮毫するも、年頭から体調不良により病に臥す。

○同年八月二十三日、湯河原山荘天野屋山桃庵にて逝去。戒名は靈山院瑞誉栖鳳居士。

(参考文献) 山種美術館の竹内栖鳳

(参考文献等)

●ふるさと潮来第19輯1頁藤岡健夫著「画伯竹内栖鳳と藤岡鉦二郎」

●ふるさと潮来第21輯小沼正司著「潮来・水郷を描いた画家たち」の竹内栖鳳

●茨城新聞

以上

開発哀歌^{エレジー}

小沼正司

鹿行地方の歴史を大きく変えた鹿島臨海工業地帯の造成は、潮来地方にも多大の影響を及ぼした。しかしこの大開発がいかに構想され進められ今日の状況になったかは、以外に知られていない。

開発の目的や進められた経緯と実績、開発に勤務した潮来の県職員の概略については、当第16輯に小生の拙文で記しましたが、用地買収と移転交渉の現場の実態については、いろいろの喜怒哀楽が有り、当時買収を進めた職員も時の経過と共に亡くなった人も多くなり、当時若手職員として勤務した



事務所表札をかける岩上知事

私も八十歳となった。当時を知る人も少なくなり、過去の出来事ごととして風化し忘れ去られて行く、あの田が、畑が、砂丘の山がと、思い出しながら、私の受けた衝撃的なエピソードを記してみる。

幾多の当時の交渉相手には子孫は現存しているわけで、当時を話すことはプライベートなことではばかられることが多い。何事もなかったように消えてゆくのであり、この辺をご承知ください。

鹿島臨海工業地帯

開発組合鹿島事務所が開設され開発が始められた昭和37年から私は14年、庶務広報・用地買収・管理・登記と勤務し、特に用地買収には38年から6年勤務した。

担当した部落はOh・I・Sの三部落で一緒に担当したのはS・Y・Sそれに小沼の四人である。



この内S部落のA氏は四十代半ばで酒を飲めば人が変わる酒癖の悪さを除けば、気の弱いやさしい感じの人だった。この当時は貧しく、当時としても珍しいドラム缶風呂を使用している、担当の一人で水戸から来ていたS氏は、寮の風呂も有ったが混むので、A氏と親しくしていた氏は、よくこの風呂に入りた訪問していた。このA氏は、すでに用地買収には応じていたが、移転地区に該当していたため、移転交渉を事務所で行うため家族全員（5人）で来た。移転条件と移転先について話し合い合意した、契約には満足し非常に上機嫌で掃宅していった。

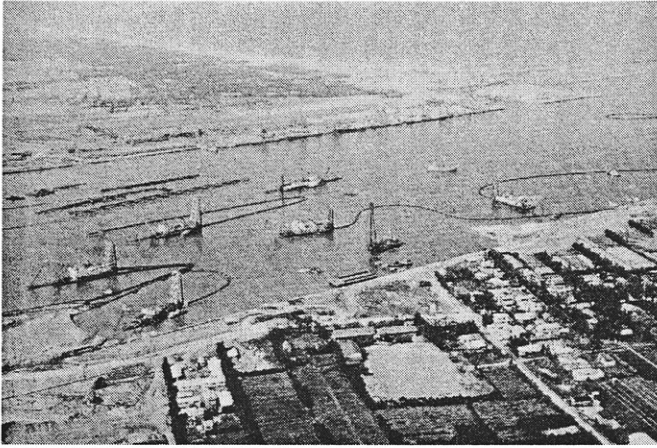
次の日の朝勤務につくとすぐA氏の末娘（小学1・2年くらいで、見たところA氏によく似ていて可愛かった）が一人で上がってきて、父ちゃんが死んじゃったと言うので驚いた、なぜあんなに上機嫌で元気に帰ったのに。下に来ていた子供たちに聞くと、多少の推測を加えてそのいきさつはこうである。契約後、家に帰ったA氏は、上機嫌で風呂に入り大好きな祝酒を、今までになく浴びるほど飲んだ、だんだんと酒癖が出て大暴れとなったが家族は止められない。家族はいつものごとく全員ビニールハウスに避難してたった一人になった、俺がこんなに家族のためを思っただけなのに皆裏切って逃げて行くのか、俺がいなければどうなるのか、酒を飲みすぎた気持ちの高ぶりもあり瞬間的に農薬を飲んだのである。

死に顔を私は見ていないが大変変わり果てていたそうである。葬儀に参列したが近所との付き合いもほとんどなく、寂しい葬儀だった。

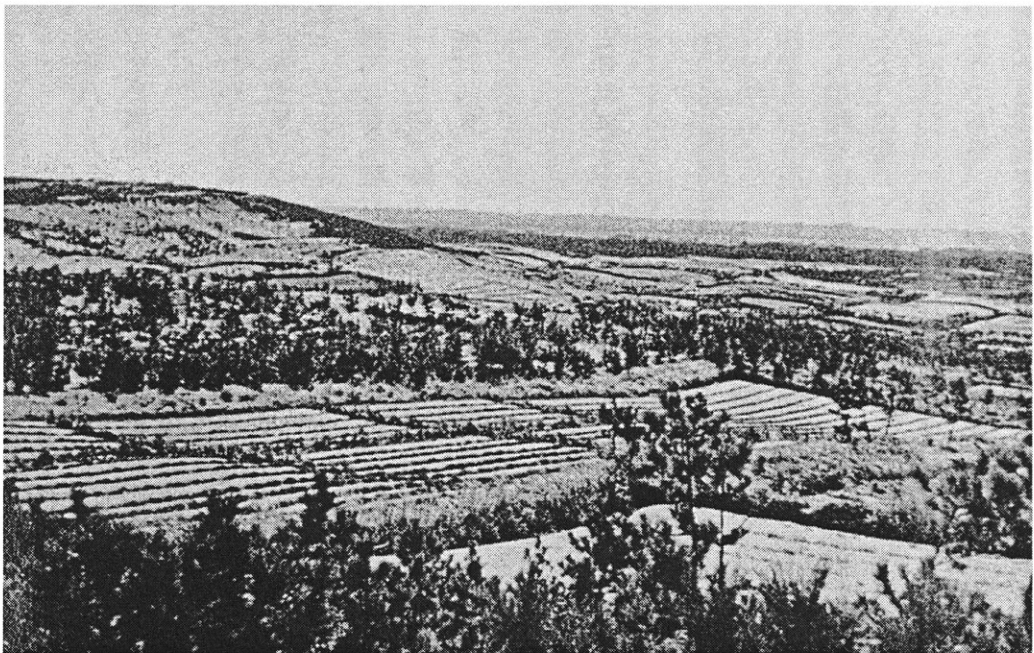
時がたったが今はどうしているか分からない。

一夜にして変わった地区の時代、貧しくてもそれなりに生活していただろうに、開発の陰の部分である。

今でも思い出される私の関わったいろいろあつた開発業務では忘れられないショックな思い出である。



建設工事が進捗した鹿島港



開発前の畑と砂丘

交通よもやま話

吉川 俊

1 白バイの由来

世界で一番早くオートバイを警察用に使用したのはアメリカで、一九一〇年（明治四十二年）にシカゴ警察が「インデアン」を採用したのが初めてだといわれている。

日本の警察でオートバイによる交通指導取り締まりをはじめて実施したのは、大正七年一月、東京においてである。発足当時使用したオートバイは、「インデアン」5台、ライティングカー1台の計6台であった。当時、車体の色は赤色だったため、俗称「赤バイ」と呼ばれ、運転者には怖がられ、一般民衆からは親しまれるようになったのである。

欧米に倣ったもの「平和の騎士」の意味。

夜間の取り締まりにも目立つように「月光部隊」とも呼ばれた。

なお、この赤バイは昭和十一年に白色に塗り替え改められ、それからは「白バイ」と呼ばれている。

2 交通安全標語第1号

大正八〜九年頃東京タクシー自動車株式会社では、安全運動のため標語を募集した結果、加藤好雄氏の作品が一席入賞した。

これが、日本の交通安全標語の第1号で

「留守にさんすな手に持つラツパ

フートペタルトと耳と目と」

当時の警報機は、ほとんど手元のゴム球を握ってラツパをならすものだった。

他に

「急ぐな飛ばすな向うに着いても

ものの2分と違わない」

などのスピード厳守の標語も入選している。

3 交通腕章の由来

腕章という服飾形式は、明治初期から軍隊で使い出し、一般でも職種や階級的なものを表示する手段として広く用いられるようになっていた。

『交通腕章』が使われはじめたのは、大正二〜三年頃からのようである。このデザインは、鉄道関係者が交通安全意識を高める手段として考え出したもので、鉄道軌道のレールを

シンボルにした2本の白線を腕章に入れ「交通安全」の意味を持たせたといわれている。

大正初期といえば、自動車は数えるほどしかなく、交通問題としては、交通需要の大半を賄っていた汽車の路面電車の事故防止が主で、交通腕章は主として踏切警手に使用されていたという。

大正七年十二月に内務省警保局が内務省第145号「交通取締巡查腕章ニ関スル件依命通牒」として通達を発し、全国的に交通取締巡查を設置する場合には同一形式をとるようにしたのである。

4 運転手第1号

文明開化の交通機関のひとつとして出現した自動車の運転技術は、外国商社に勤める人たちが見よう見まねで覚えたと思われる。日本最初の職業としての運転手は、横浜のL・シューゾール商館に勤めていた森屋縫之助氏といわれている。

警視庁から正式の免許証を最初に取得したのは、三越呉服店（現在の三越デパート）の飯草吉之輔氏とされている。

また、女性運転手の第1号は、ハイヤー運転手の渡辺はま子という人で大正九年、東京に女性運転手の第一号として登場し、男性の職場に敢然と飛び込んだ女性だけに堂々として

男に負けぬ女丈夫であったといわれる。

5 オートバイ第1号

オートバイが世界で初めて製作されたのは自動車が發明される2年前の一八八四年（明治十五年）にドイツのダイムラーとされる。

日本に初めてオートバイが出現したのは、明治35年横浜のアンドリュースブルーウエル兄弟商會が支配人の自家用として、見本車1台（トーマスオリエント）を輸入したのが最初である。

商品としては、明治三十六年に石川商會（自転車商で丸石商會の前身）がアメリカ製乾電池装置付きミツチエル・オートバイ2台を輸入したとされている。

国産オートバイは、明治四十一年に岡山の山羽虎夫氏が完成したといわれるが、明治四十二年に關西の島津樽蔵氏が完成したともいわれている。

二十三夜尊の経歴其の四

秋 永 守

この二十三夜尊堂は江戸時代の孔子聖堂としてそのまゝ現存する全国的にも極めて稀な文化財です。江戸時代には延方学校として、(延方内田山)今の潮来高校の処にあり教育の役割を果しました。明治十一年(一八七八年)に辻の人々が買い取り現在地に移設したものです。この学校建設と教育の元勲の澤田平格と小宮山昌秀(楓軒)久保木清淵の名は記憶に留めたい。

二十三夜尊堂の総代は創建以来約二百年になるこの文化財の保護と腐食防止のため、この度全面的な床下及び外部の防食塗装工事を行いました。工事に当っては全国文化財保護の先生方の意見に従い、派手な色は避け、べにがら紅柄を柿澁と松煙で溶いた極上塗料を使用しました。お陰様で澁柿より澁い色に仕上がりました。これが古来からの最高の塗装工法です。

総工費約八百万円(六割県負担、二割市負担)で約半年かけて工事を行いました。

塗装工事は市内随一の塗装業者、(株)萩原塗装店が行い

ました。本工事施工に当り各方面有志の方々、参拝の方々より多大の御寄附を頂きました事に厚く御礼を申し上げます。

平成十九年(二〇〇七年)一月吉日

孔子論語より

子シの曰ノわく学ノびて特にこれを習うヨロコまた説コばしからずや。

朋あり遠方より来る。また樂しからずや。

子の曰わく巧言令色スクナシジン鮮矣仁。

子の曰わく学んで思わざれば則ち罔くらし思うて学ばざれば則ち殆アヤうし。

子の曰わく故フルきを温めて新しきを知る以て師と為す。

総代表 沼理潤三郎撰文より引用

一部ふるさと潮来第二十五輯(二十三夜尊)と重複するところがあります。



二十三夜尊堂 正面より



清正公様 勢至菩薩様 妙見様 月読尊

私の高野山物語

岡本保美

今から十数年前のある日、妻が『高野山に無性に行きたくなつたが、一緒に行つてくれない……』と尋ねてきました。旅行好きで、妹や女友達と全国いや世界各地を旅している妻は、一応私に行こうかと云い、行かないよとの返事を確認してから、次の相手を探すパターンがこゝ十五・六年位続いております。

一方、私の方は江戸時代に三代にわたつて記述されて来た家系書を判読しながら調べていたが、その古書の中に高野山覚證院発行の書を見つけた。それは安政六年五代当主保則の死去により六代当主の保利が同年暮に、居所小田原から西へ鎮魂の行脚を行ない、高野山にて月牌證文を受けており、その證文が保管されていたのを見つけたのです。

そこで「行つてもいいよ」と即答しました。賛同したのは二回目で最初は更に十数年前の網走流氷見物でした。行こうとの返事に予想外でびっくりしていた女房でしたが、二十数年間で二回目の実施です。

さて高野山詣ですが、近所の方に宿坊本本院のチラシを借りて、宿の手配をし、あとは無計画で出掛けて来ました。

宿坊に着いて御挨拶をしていると、若い副住職が、行方郡の方は昔から大勢来られておりますよと云つて、宿泊名簿を見せてくれました。部厚い名簿で行方郡の項目を開いて見せて頂きましたが、最初に眼に飛び込んだのが、女房の曾祖父親子の名前でした。女房はびっくりすると同時に「やっぱり先祖が私を呼んでいたんだ」と云つて絶句しました。彼女の両親は何回か当地を訪れておりましたが、その都度別の宿坊へ泊っていた訳です。そこで翌年母を連れて三人で再度訪問し、欠落している祖父、父の安寧を祈願して宮本八十八とその子八十吉（初代延方郵便局長）を結び付けて清々しい気分帰路につきました。尚八十八は明治初期、東京足立に実弟の柏崎松之助と煉瓦工場を経営し、東京駅北口及び網走刑務所の煉瓦塀等、明治大正にかけて東京を中心に数多くの所へ宮本工場製レンガを納入しておりました。それを知らずに私の家族を中心に女房の母も加えて総勢十数名で二十数年前に流氷見物へ行き、網走刑務所もじっくりと見学して来た訳です。流氷は見られなかったので翌年再度訪問して目的を達成した事を昨日のように覚えております。

本本院に関してはそのパンフレットによれば保元三年（一五八）京都山城国醍醐山理性院二代浄蓮改め上野阿闍梨宝心僧都が登山して開基となり、次いで翌平治元年常陸国行方郡の住人少納言覚尋徳藏法印登嶺して当院二代を継承してより、常陸の大名島崎左衛門尉、畑田道満侯、宍戸中務大輔等

諸公の帰依あつく当院を盛大にし、以後代々の住職各地に巡錫して、茨城、東京、大阪、堺をはじめ全国に信徒を擁し山上有数の名刹……となつております。九五〇余年の歴史の中で特に大正、昭和初期には数多くの行方地方各地から、諸先輩の方々がグループを編成して参詣されている実態を見せられたようで大変感動致しました。延方も知っている名前が、あちこちに記載されていきました。特に地元の諸先輩の方々に、この過去の実態を是非知つて頂き後世につなげて頂き度く筆をとつた次第です。尚私の友人親戚の下田茂木博君の戦死した父親の葬式には当時の住職が、はるばる末潮され、御出席されたと聞いております。

蛇足乍ら、私の方の覚證院については、度重なる罹災、焼失によつて既に廃寺となつていふとの事でしたので、私も祖父保誠、父保英を本王院で先祖に結びつける事が出来て、信心深くはない私でも感慨無量となりました。そして三十年を既に迎えており、第三回いや最終回をどこにするか、考慮中の今日この頃です。

稻荷様の思いで

柏崎 一雄

昔庄屋をやつていたという家の稻荷様のことをそして年一度の初午のことを綴りました。私は近所の潮田さんという祖父の方に声をかけられて入りました。前から町内外の祖父母達も行つていたと思います。

私が入つてまず潮田さんと一人で稻荷様の清掃管理を、二ヶ月に一度ぐらいつつ行つてまいりました。あとは女性の方ばかりでした。全員で十七—十八人ぐらいでした。当日は朝早くから参道に祈願文を書いた赤い旗を沢山立てました。そして女性の方達は朝から奉納品や熨斗袋にお金を入れて参加してくれました。

そして公民館で女の人達は油揚、人参、その他入つた混御飯のおにぎりを沢山造り、又、煮物など色々料理を造つてお供えして祭つていました。その後小田倉さんという近所方に入つてもらい男性が三人になり、その後潮田さんは弟さんは弟さんになり、私が司会で始り潮田さんと小田倉さんは、会計兼社総代として毎年盛興に行つておりました。

昼食前にまず経文を誦えてからその経文は『日山月山は羽衣権現並びに稻荷大明神』というみじかい経文でした。食後

お話しをしたりくつろいでから奉納品の即売をしております。品物は主にお米と御酒が主でした。また一般の信者の方のお賽銭も沢山ありました。

お賽銭と熨斗袋のお金と即売のお金は、お祭りの経費を差し引いて残りのお金は稲荷様の鳥居を建てたり立賛に資金として畜財をしております。そして、小田倉さんが亡くなり、その後潮田さんも病気なり私も病気になってしまい、お祭り及び清掃管理も出来なくなつたので、潮田さんと相談して親戚の家を通じて話しに行き持主に返してしまいました。

現在は親戚の家で清掃管理をしております。その後潮田さんも亡くなり、今では懐しい思い出のひとつまででした。

大洲の河童

吉川 俊

江戸時代の終わり、大洲に前川から浪逆浦につうじていた江間カツパ川があり、その側に丑次郎さんの水田と畠があつた。春になると、「きゅうり」や「うり」を蒔きつけ、収穫を楽しみにしていたが、毎年初年りのきゅうりがなくなつて困っていた。誰かが盗んでいくのかと夕暮れに畠を見に行く

と、髪がぼさぼさして、口がとがった青い体をした子供が、手カゴにきゅうりを取っていた。丑次郎さんが大きな声で、「泥棒」と怒鳴ると、その少年はすごい早さで逃げ、すぐに姿が見えなくなつたと思うと、川の遠くでポチャンと音が聞こえ、これは河童のしわざだと思つた。

「こんどは捕まえてやれ」と次の朝「虎ばさみ」をかけて待つてみた。すると案の定かっぱは手を挟んで泣いていた。

丑次郎さんは、こらしめてやれと思ひ、「頭の皿でも割つてやるか」とめんずきをふりあげると、「これからいたずらしません」と土下座して謝るのです。人の良い丑次郎さんは許してあげた。

するとその夜、かっぱが枕元に来て、「丑次郎さん」と呼ぶ声が出た。「昨日助けて頂いた河童です。お礼においしい漬物の漬け方をお教えます」と巻物をおいていった。

この巻物に「きゅうりのかっぱ漬け」「ウリの鉄砲漬け」などが、しつかりと書き記されてあつたという。

(参考文献) 「常総のかっぱ伝説を追う」

利根川流域の沼川湖のふるさと

民俗編

年中行事について

人々の生活の営みには、毎年同じ期日に、同じ仕方、ほとんどかわらずに繰り返しかえし行われる「行事」「講」「まつり」がある。人々はこれを一年の節目として重視し、日常の生活の日としている。

こうした年中行事は、家をはじめ集落、村、国といった単位でも行われている。またその内容は、神仏などの信仰的な行事、祭礼もあり、農耕儀礼も含まれている。さらに日本の年中行事は、暦日（旧新）を中心としたり、十五日の望月を中心とするもの、自然歴を含むものもある。

ここでは市内の一年をおしてのさまざまな行事をとりあげました。

祭り行事調査

月 地区名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	現在行われている 行事	廃止された 行事
西町〜浜町		初午						祇園祭(8日)					観音講 月1回 西 稲荷講 月2回 西 天王講 春・秋 庚申講 年2回 日侍講	観音講 久上 虫送り
下町〜四丁目		初午・水神講(15日) 天神祭(25日)			天王祭			祇園祭(8日) 天神祭(25日)					愛宕講 年1回 (旧9月24日) 天王講話 月1回 下地蔵尊講 月1回(24日) 不動尊講 月1回(28日) 二十三夜講 月1回 観音講(上町) 月1回	
五丁目〜六丁目	元旦祭(米島)	初午・鷲宮祭						祇園祭(8日)	献穀祭(23日)				庚申講 年6回 愛宕講 年1回 大師講 年1回 天王講 月1回 観音講 月1回 二十三夜講	権現講
大洲		村祈禱・春祈禱(1日) おかけ・水神祭(15日) 鹿島無盡講(22日) 火事日まち					祇園祭(3日) お新祭(子の日)						庚申講 年6回 二十三夜講 月1回 観音講 月1回 お釈迦様 年1回 お万べん 年1回 彼岸念仏 春・秋 不動講 月1回 無順講	日侍講 2月11日紀元節の日 3月8日大火の日 無順講
十番	天王講												庚申講 年6回 観音講 年6回 三夜講 年1回 犬供養 年1回	
十四番		水勅講											観音講 地蔵講	犬供養

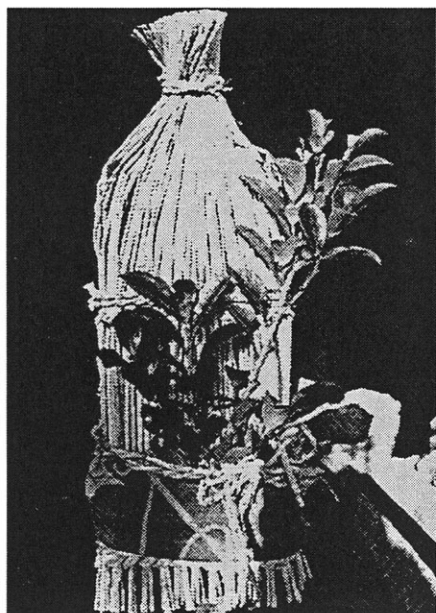
庚申日は講中年6回

地区名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	現在行われている行事	廃止された行事	月／
築地	春祈禱 おかけ 20日	初午					祇園祭		おかけ				八日講(8日) 三十三夜講 十九夜講 犬供養		
新町	二十三夜尊 (1日・23日) 初午・春祈禱(4日) 例祭(17日) 水神講							祇園祭(5日) 硯宮感謝祭 (1日・23日)		硯宮勤労感謝祭(23日)			観音講 十九夜講 念仏講	廿三夜講(男) 薬師講	
後明	二十三夜尊祭 取子祭	初午 春祈禱			二十三夜尊祭			祇園祭(5日) 二十三夜尊祭					二十三夜講		
将監		初午 春祈禱						祇園祭(5日)					二十三夜講		
江寺		初午・おかけ(1日)								熱田神社例祭(23日)			観音講 年6回 三夜講 年6回 観音講 犬供養 年1回 念仏講 月1回		
貝塚	春祈禱(17日) おかけ(29日)							風ふさぎ 感謝祭	感謝祭				庚申講 年6回 十日講 月1回(金) 毘羅様 観音講 月1回 念仏講 月2回 虫追念仏(土用3日)		

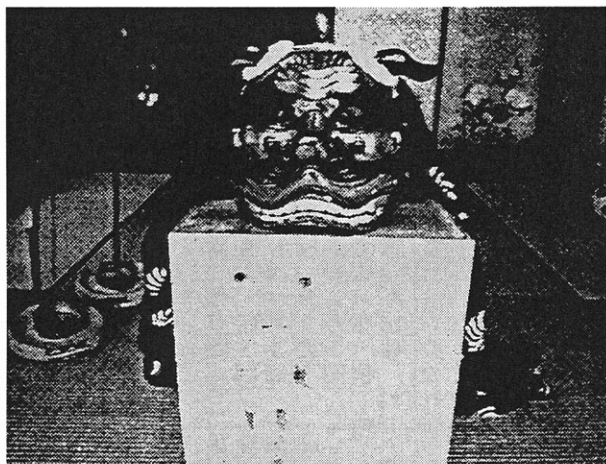
廃止された行事	現在行われている行事	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	月 地区名
河童餅まき祝	庚申講 年6回 虫供養・人形送り 百万べん・鐘起行事 大師講・えびす講 観音講・二十三夜講 念仏講	水戸黄門祭(6日)		鎮守祭 (2回目の巳の日)	淡島神社祭							水神講(15日) 1日	村祈祷(28日)	徳島
	庚申講 二十三夜講 大師講 念仏講												水神講	福島・米島
いりで祭 犬供養 成田講	庚申講 年6回 観音講 月1回 三夜講 月1回 数珠ぐり 春・秋 十九夜講 日待 水神講					祇園祭		祇園祭(1日・15日)			弁天様祭礼	初午・村祈祷(1日)	おかけ(22日・26日)	下田
	庚申講 年6回 観音講 月1回 薬師講 年2回		鎮守祭					祇園祭(1日・15日)				初午・村祈祷(1日)	御掛祭(22日・26日)	新宮
子安講	庚申講 稲荷講 観音講 二十三夜講 二十六夜講 犬供養 人形送り 大師念仏 不動念仏 月1回		例祭(23日)		鎮守祭(9日)	風除け		しづぬき日侍			おかけ	初午・村祈祷(1日) 人形おくり	おかけ(鹿島)	古高
	庚申講 観音講		例祭(23日)		鎮守祭(9日)	風除け		しづぬき日侍				天神宮祭(25日) 鹿島おかけ		須賀

廃止された行事	現在行われている行事	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	地区名 月
伊勢講 大師講 初午祭 寒念仏 虫追念仏 百万遍 (数珠繰り)	三夜講 六夜講 観音講 天神講 水神講 念仏講 灌仏会 (四月八日)											天神宮祭礼		曲松
虫追念仏 百万遍	庚申講 中年講 観音講 三夜講 念仏講 大師講		鎮守祭						大六天祭 (7日)			初午・村祈禱・水神講	おかけ (26日) 鹿島	小泉
	庚申講 観音講 二十三夜講							虫送り			若松様	村祈禱・水神講		東・西区
	庚申講 三夜講 大師講 観音講 犬供養							祇園祭 (1日・15日)				おかけ (鹿島) 初午 水神講		洲崎
伊勢講 雨乞念仏 疱瘡こもり 虫追念仏	念仏講 彼岸念仏 お釈迦様 大師講 廿三夜講 金毘羅講 庚申講		祭礼・水神講 (1日)			風ふさぎ		祇園祭 (1日・15日)	しぶぬき日侍			初午・おかけ (17日)	村祈禱 (28日)	水原・下組
	庚申講 観音講 稲荷参り ずつ送り		鎮守祭 (1日)	祭礼	大山講 (1日)			祇園祭 (1日・15日)				初午・おかけ (17日) 水神講 (28日)	村祈禱 (28日)	水原・上組

廃止された 行事	現在行われている行事	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	月 地区名
水神講	庚申講 年6回 観音講 年6回 犬供養 年1回 稲荷参り 年2回 十八夜講 年2回	鎮守祭 (1日)			鎮守祭		風ふさぎ		お酒盛・しづぬき日侍	三峰講	おかけ (15日)			釜谷
二十三夜講 虫追念仏	庚申講 年6回 観音講 年6回 犬供養 年1回 稲荷参り 年2回 講さらい・日侍	大生神社祭礼 (15日)					まんじゅう祇園祭 (28日)		お酒盛り	大生殿神社祭 (14日)	湯立神祭 (旧2月11日)	初午・おかけ (15日)		大生
百万べん・二十六夜講 虫追念仏・天神講 風祭りめ・つくろい日侍 雨乞念仏・庚申日侍 月念仏・三峯講	彼岸念仏 春・秋 お釈迦様 年1回 寒念仏 年1回 膳碗調べ 年2回 観音参り 年2回 犬供養 年2回 二十三夜講 月1回	五社祭 (23日) 鎮守祭 (23日)七五三祝			七五三入祭 (1日)			御頭祭 (1日) 天王祭 (15日)			春祈禱 (1日)	初午・水神講 (21日)	村祈禱 (23日)	大賀



水神講御神体



水原根崎組春祈禱祭獅子頭

講とは

山澤幸次

平安時代以降に発展をみた各種の宗教的、経済的な共同団体の組織、もともとは、最初講、仁王講などのように、寺院において学侶が経論を講読することを意味し、その構成員を講衆といった。中世に入ると僧侶だけでなく俗衆も加わり、同信が集まって法義を聴聞したり本尊や祖徳を賛仰する仏会を指すようになった。このころには、神社を中心とする講もみられるようになり、寺社の修理などを共同しておこなう組織も生れてきた。また室町時代に発生し、江戸時代に盛んになったものに名山霊場に参詣することを目的とした講がある。伊勢講、金毘羅講、笠間稻荷講、鹿島講など、修験道との関係が深い山岳信仰に基づく湯殿山講、三峰講、加波山講、筑波講、古峰ヶ原講など、寺の檀家、信者によって組織される浄土宗の十夜講、浄土真宗の報恩講日連宗の題目講など、又地元の船越地蔵尊を安置する普門院地蔵堂は江戸時代初期の建築で、その柱の一本に「地蔵講板久和田町 貞享元年（一六八四）子八月廿四日」として妙誠ら三人の法名をかめら七十八人の俗名の女性の名が朱書されている。そしてこの地蔵講の女性たちの名は潮来遊郭の遊女達といわれている。

る。このような講は布教によって形成されたものである。自然発生的な講は、民間に数多く組織され、毎日の生活を支え、生活を充実させるために大きな役割を果たした。天神講 三夜講 庚申講 山の神講 妙見講 十九夜講 観音講 子安講 地神講などが県内各地に分布していた。講は、各地域ごとに年齢別、男女別に組織される率が多く、主婦のみの講、戸主のみの講、老人のみの講、子どものみの講に分けられている。一定期日の集まり、飲食をともにし語り合い、疫病よけ、災難よけ安産などを願う、講中で立てられた石仏、石塔も県内各地に見られる。また経済的動機で結集される頼母子講、無尽講は、信仰的講の二次的なものであり、庶民の金融機関として発達した。なかには観音堂などを修理するために組織されたものもある。

古高のササラ舞と人形送り

山澤 幸次

延方地区の古高で二月一日に行なわれる国上神社の祭礼は、村祈禱としておこなわれ、ササラ舞の獅子三頭は市の指定文化財となっております。

国上神社（祭神は、大己貴命、小名彦名命）の創立年代は不詳であるが、古高の地は、早くから開祖されたとされているので民間信仰の神として祭祀されたと思えます。

市内の上戸地区にも国神社があります。上戸の国神社の由来には応永二年（一三九五年）に祭祀されたとあり今から約六百年前である。この神社でも十一月二十三日（以前陰暦十一月中の卯の日）に行われています。春は古高で、秋は上戸で、なにか関係があるかと思われまます。創立年代も考えられるものがあります。

ササラ舞は獅子頭が三体（雄獅子・中獅子・雌獅子）で三人で踊る。装束に白はかま、前に小太鼓をつけ、ササラ（はしのような棒）で太鼓をたたきながら笛に合わせて踊るのです。獅子舞いは三体の掛合で神事の舞（舞の成就を祈願した舞）と本舞と余興舞がある。本舞は一匹の雌獅子を二匹の雄獅子が奪い合う舞と品物掛り遊ぶ「掛り物」とがあるとされ

ています。古高のササラ文書（松崎平翁）には祝詞と、畧詞があり笛楽譜が記されて残されています。

そして天下泰平、村内安全、疫病神や疱瘡の悪事災難、農作物豊作を祈るものなりとあります。

笛の楽譜は、道やり、女獅子、中獅子七通り禮七通り、初格七通り、廻り車、末の格向七通り、乱獅子間の移り初め三度、乱獅子数なし、五本幣を持ち歌う歌詞なども記されています。

ササラの祝詞 畧詞

抑佐々羅ノ初リハ由来ヲ委シク尋ヌルニ昔々其往古伊弉諾尊
伊弉冉尊ノ御時ニ天照大御神天ノ岩窟ヘ引籠リ此世カ闌ニ成
リシ時数多ノ神等集リテ八乙女神衆ヲ舞賜ウ帝釈天ノ命止
シテ天ヨ利童子天降獅子ノ頭ヲ持タレタ利頭ニ是乎戴テ
神子獅子舞止成シシ時天ノ岩窟カ開ケタ利大日本乎初止シ
テ三千世界明ラカニ照ラシ賜ウ有難キ其ノ所謂
ニテ我朝仁今ノ世迄モ残レ止古ヨ利ノ伝ナリ勿体ナ久モ此
獅子ハ忍性菩薩ノ御作ニテ神ノ儘ノ神子舞ナ利是乎一度舞時
ハ悪魔魔道降伏シ天下泰平万民豊樂村安全ノ御祈禱也外ハ音
ノ響丈疫神等ヤ疱瘡ノ悪事災難逃ラセ賜ウ旱魃ノ時ハ雨乞
ノ五穀成就ヲ祈ナリ由来ノ古実云ク「御神獅子舞之防ナリ」

奉持

敬白
荒々
アブラ
クイ
ハク

道ヤリ

チイチイチララアリララ。チイチイチララアリラア。ラララ
アララリロララ。

トヲララリロ。トロヲリララリロ。トロヲリトロリラララ
ラ。トララリロトロウリヒヤラリロラウララチイラララリ
ラララ。

女獅子（笛楽譜）

トウロロリライ。ララリライライ。

チイララリロリ。ライウライ。チイチイチララリロリ。ト
ロヲリライライ。チイチイチララリロトウロウヒヤラウ
リララ。ヒヤトロロトリウロウヒヤララ。

右女猪拘座寺出廻り終迄

以下省す

現在は若衆により各戸を訪問して櫛の幣と中獅子を持参し
て五穀豊穰、疫病退散、災害悪事除けを唱えながらおこなわ
れています。

人形送り

国上神社の二月一日行われる例祭には、ササラ舞行事と合
わせて人形送りの行事がおこなわれます。人形は藁束ねて、
胴、手、足など作り、腰に、しの竹、大根の丸切りでつばを
付けた太刀を差し、中の竹に差し出来上がりです。従来は
各戸で作り門口に立て、悪病や災害を祓う呪術的信仰である
と引継れていると思います。そうして従来は子供達が集まっ
て村境まで持つて行き、奉納して村内安全を祈願し、農作物
の豊作を願ったとされています。現在では区長、世話人で五
体の人形を作つて、ササラ舞が各家々を廻つて帰つて来るの
を待つて、水原地区との村境の道路ぞいに立てるです。

人形送りは、県内各地に見られるが七月から八月にかけて
行われ、大助人形という鹿島大明神、香取大明神などと札を
下げ、顔を書き、だんごや、万十を背負い村境などにたてて
いるようです。

潮来市でも、徳島に、現在老人の手によつて行われ、以前
は、大賀地区でも行われていたとされています。

講について

窪谷 浩

天神講

天神講は須賀・曲松地区に古くから伝わる行事であります。

当講が行われるようになった年代は不詳であるが須賀天満宮が祀られたのは寛文二年（一六六二年）創建とある。元禄六年（一六九三年）の天神講の帳簿が残っている。

現在は昔とは変ってきているが毎年続けられている。講は旧暦の二月二十五日に行われていたが明治の末頃から



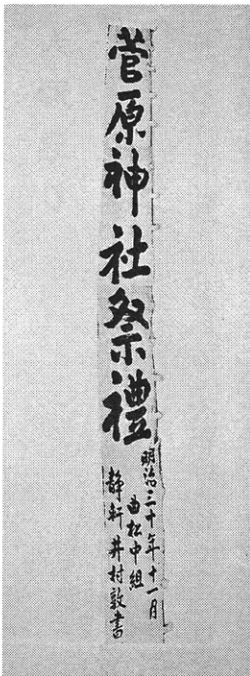
曲松浜組の天神講



菅原道真公

三月二十五日に行われるようになった。菅原道真公のお姿の掛軸を床の間にかけて御神酒一升と膳部を供える。

当番は順番性で行い当番の者は前日に白米五合と講費を組全戸から集めておく。当日男達（若い衆）が早めに集り買い物をしたり煮炊をして料理をつくり準備をする。日中より集り夜を徹して語り合酒宴を催す風習があった。

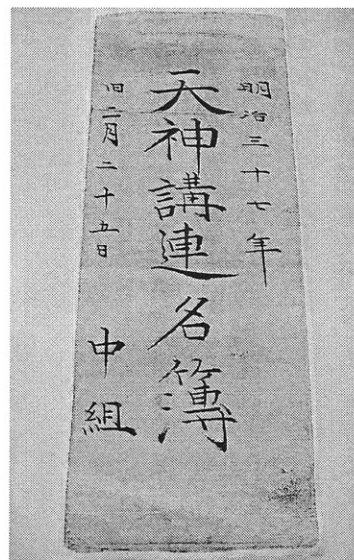


現在は三月の第一日曜日に行われている。曲松区は五つの組があり、「戸数」(H22・8月現在)一〇七戸「役員宅や地区公民館・集落センター」などで行っている。

各組の講の中で区長職、副区長職、その他の役職を予め推せんして組の役員が公民館に集り区のルールにより区民の信任投票により役職を決めている。又、生活改善や年中行事などを五つの組の協議により決めている。

明治三十七年の帳簿に次のことが書れている。

「抑本年八月露交戦ノ時局ニ對シ容易ナラサル時機ニ候間



當講ノ義モ区内ノ協議ニ依リ従来ノ慣例ヲ廢シ質素ヲ旨トシ改正スル事」
この年の物価は、天井一



○銭、そば二銭、アンパン一銭、理髪一五銭、タバコ敷島八銭、朝日六銭。

◎第三回オリンピック大会(セントルイス)開催される(「新聞紙面で見える百年の歩み」より)。

大正十五年の帳簿には

「当講従来ノ慣例ヲ廢シ勤儉推助時期に鑑ミ料理ノ儀ハ質素ヲ旨トシ御平ノミヲ用エル事」とある。

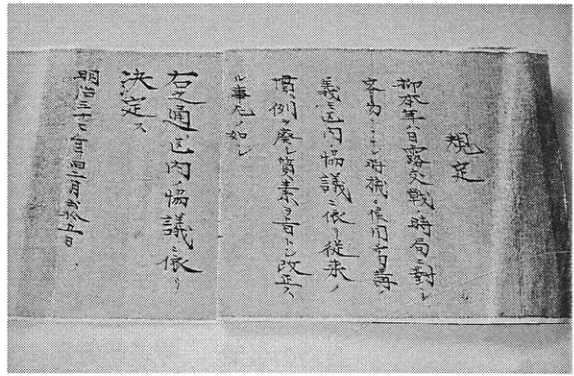
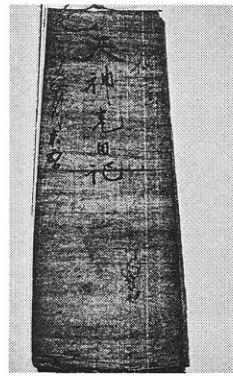
物価は白米十キロ三円二〇銭、うな重五〇銭、寿司二〇銭、タバコゴールデンバット七銭、ラジオ受信料(一ヶ月)一元(「新聞紙面で見える百年の歩み」より)。

◎東京六大学野球連盟結成

天神様〓おんとうどう

しんじんそわか

(くりかえし唱える)



大師講

弘法大師信仰の講で、女達が毎月大師の縁日に念仏堂に集ってみんながそれぞれ持寄った煮物などでお茶を汲み且つ「南無大師遍上金剛」とくりかえし唱えるのである。

古高大師が年一回春に各区域をまわる。この時お供が数十人も法螺の貝を吹いて「なむだいしへんじょうこんごう」と揃って唱えながらそろそろと歩いて歩く。立寄るところには世話人が決められていて、湯茶の接待をする。昼時のところではお握りをつくって接待をしていた。

大師様は厨子の中に安置されたまゝ笈に納まり信者の背に負われ先頭に立つ。お泊の家では床の間に安置する。



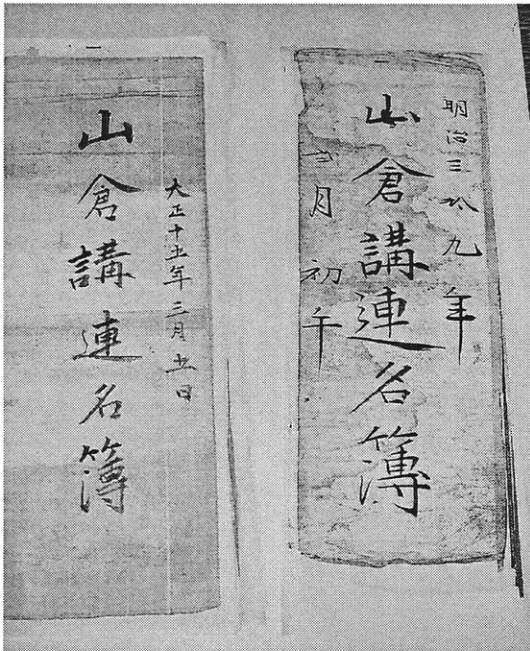
弘法大師像

山倉講

山倉神社、高御彦霊神、講は明治三十九年当時は二月初午に行われていたが、明治四十五年に改正致し、毎年三月五日と定むと講の帳簿に記載されております。

この講も時代のうつり変りと共に伝承されて来た行事も消えてしまいました。寂しい事です。

山倉神〓おんまうけ じんばらめいていそわか
(くりかえし唱える)

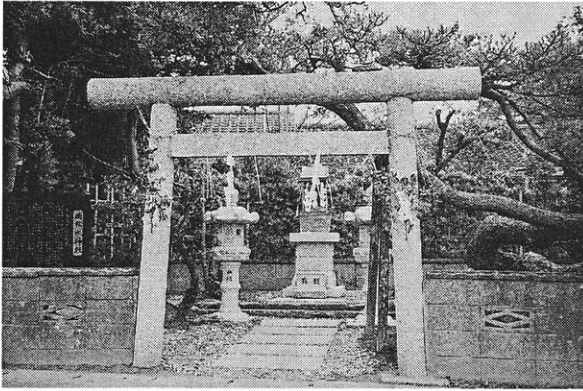


当時の名簿

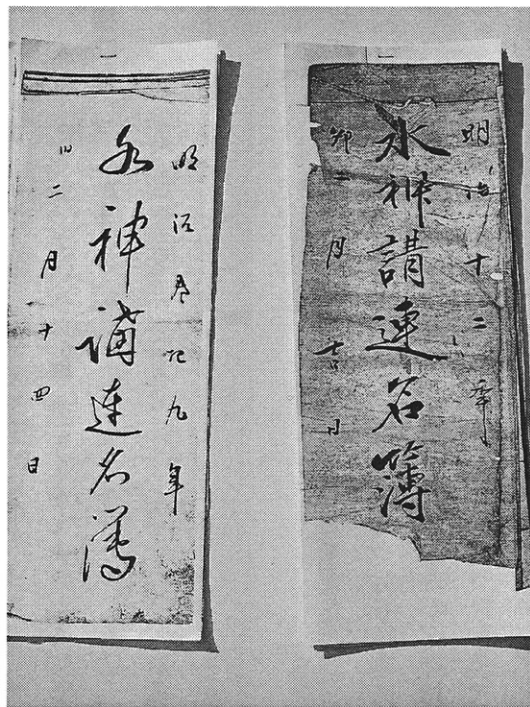
水神講

前川地域には堤防がなく水難よけのために各集落には水神社美都波女命が祀られています。旧暦二月十四日の水神講の日には、戦前は水神田が有り交代性で田植から秋の収穫まで担当する。祭の当日収穫したお米と御神酒を奉納して鮎の腹合せや、テッポウナマス（小鮎のぶつ切りを酢漬けにして大根ナマスの中に入れたもの）など鮎づくしの料理を供えます。信仰を目的としておりますが、収穫された米をもとにして酒宴を開いて地区の人々の交流を深めたり、親睦、団結を強めるために大いに役立つていたのではないのでしょうか。（戦後農地法の施行により「水神田」がなくなり、米とお金を揃えて行っていた）

この水神講も時代のうつり変りと共に古くから伝承されて来た行事も現在は曲松地区から消えていった。



水神様



水神講名簿



水神講

目的… 田んぼの水の神様信仰（おかげ）

時期… 4月の初め 種蒔き前の行事

種蒔き、田植え前の時期で雨の降って来そうな日を選んで。

内容… 種掘りの水を干して、魚を捕って、それを料理して酒の肴にして、一杯飲んで今年の作物他の、五穀豊穰を祈願し仲間の連帯感を深める行事。水を満たす前に、稲の種籾を置いて水を満たし、稲の芽を出して種蒔きに入る作業もした。

構成員… 前島豊太郎、前島甚、前島権八、窪谷源太郎、姥貝六彦、小山六蔵、船倉五郎、窪谷勇三、久米良作ほか数軒の共同体。

二十三夜講

目的… 子孫繁栄、子宝安産祈願

時期… 正月、五月、九月、霜月に行く。

内容… 隣組、仲間の中に妊娠した方（妊婦）が解かった時にその仲間、隣り組員が、その方の無事な安産、安らかな生育を願う。

構成員… 隣組、昔の仲間。

辻の二十三夜様に、構成員で、祈願参拝。

観音講

目的… 子孫繁栄、子宝安産、母子無事生育

時期… 正月、五月、九月、霜月に行く。

内容… 隣組の中に妊娠した方が出来た時は、その方の無事な安産、安らかな生育を願って祈願をした。今は、奥方のコミュニケーションの場にもなっている。永山、麻生の観音様をお参りしたり、雨引観音の掛け軸を飾って御参りして食事会をしたりしている。

構成員… 隣組が多い。

道祖神

目的… 旅の安全を祈願

構成員… 一人、講者、仲間。

内容… 旅に出かける時、地区の外れにあった石仏等に旅の安全を願った。随時、通行時行われたが、今は殆んど見かけない。

井戸祓い

目的… 井戸神様信仰。水の神。水枯れ防止。

時期… 7月7日

内容…各自宅の井戸で行われ、井戸の水を綺麗に無くし、井戸コガを洗い、伊勢藻、ヨモギ、菖蒲等を薪に結わいて飾る。また井戸を潰す時、必ず空気穴は付けている。

金比羅講

目的…水運安全、漁業豊漁、四国の金比羅神官信仰

時期…旧歴の10月10日

内容…十六嶋地区他の水辺の地区において行われ、永山の金比羅様にお参りして、地区の安全と団結、親睦を図った行事。当時は、牛堀の旅館、料亭は全部満員状態。各地区予約があり、何処の地区は何処と決まっていた。

構成員…講者一同。

お盆

目的…先祖供養

内容…地区全域において、真菰で筵、御膳、牛、馬、盆船、萩で箸、ナス、キュウリ、お米であら米を作る。盆提灯に火を燈して、先祖の霊をお迎えお送りした。

お暇 璽

目的…各町内の決め事

時期…正月

内容…地区の決めごと（祭礼、節分、お稻荷様）や役職（区長、理事、財産、管理人、班長、祭事係）等を決めた。渡船の管理人も決めた時もあった。

お稻荷講

時期…初午の日。

内容…正一位稻荷大明神ののぼりを入り口に何本か立てて近所の子供達が代り番こで太鼓を敲いて、お菓子を配っていた。近くでは、永山さん、須田さん（生菓屋）、永山網屋さん裏。他は個人でやってた処があった。今は三熊野神社境内で講者がやっているくらい。

七五三 御祝い

内容…当家に七五三の該当児が居る家が、御祝いを開く。招待にあたっては、竹籠の入れ物に紅白の餅を入れて、催促餅を持って（招待状代り）親戚回りに招待に行った。今は、電話、手紙に為って締まった。

葬式使い

内容… 当家に不幸が出来た時、近所の人が親戚等に不幸のお知らせに走った。近い親戚には2人使い、1人使い、と近い順に人数が決まった。2人使いが来た時は、酒肴で御馳走して使い賃を持たせる事もあった。当時は、今の様に通信網が発達して無かったので、伝達方法が船か人力他でしか連絡できなかった。

札打ち

地区… 十六島他の地域

時期… 農閑期の、水位が低い時期だったと思う。

内容… 地区のお年寄りが、大きな数珠を持って各家を回り、御詠歌みたいな歌を歌って、家の庭を回り、お米、お金などを戴き、地区を回り終わったら、次の地区に回し、次の地区もまた、そのように歩いた。沢山の人が歩く事に依って、堤防が固まり地域住民の団結、融和が図られたのだろうと思う。

恵比寿講

目的… 商売繁盛、家内安全、五穀豊穡

時期… 年末、年始。

内容… 七福神の掛け軸を飾り、当時の発行されていた何種

類ものお札、貨幣等のお金を枡に入れ、鯉、野菜（人参、大根、牛蒡、等）、お米、昆布、あたりめ等をお膳に並べお供えして祈った。

生る木餅

時期… 年末、寒さに入る前。

内容… 紅白の餅で、短冊、振じり、丸、三角、四角等色々な形を作り、枝の多い木に美味しそうに飾って、ある程度時期が来るまで置いておく。時期が来るまでに、その餅を食べたらお灸を饅えられる。と言われていた。

おぶすな講・おびしゃ・三峰講

目的… 火伏せの神の信仰

内容… 隔月集まり、秩父の三峰様に全員で行く時もあるが籤か回り順で代参する。

構成員… 講社（何軒かの信者）

富士講・不二講・浅間講・栗島様・お月見

十五夜、イモ月見。

十三夜、クリ月見。

諸行事調査

お掛講

1 地域名…茂木地区

地 域…1 赤羽根・2 荒地・3 炭釜・4 浜工場・

5 仲倉一、仲倉二

2 区域・構成人数等…

1、2班 7～8人 男

3、4班 6人 女

5、4の一部 16人 男、女

3 時 期…2月

4 期 間…1日

5 行事の内容

各班とも当番は輪番制でその年の当番になった人が日時を定め、各々講中に連絡する。

清酒、白米、祈禱料等準備(1、2、4、5班)金毘羅神社に参拝し、五穀豊穰、家内安全を祈禱してもらう。以前は各班ともそれぞれの家庭で行われていたが、現在は宴会場を利用して、経費は会費制になっている。3、4班の講中には、鎌倉時代の中期、建長5年3月と明記された掛軸、伝教大師御直作の掛軸、御影祭名簿等が保存されている。

4、5班の例

昭和55～56年頃までは、三熊神社の神田から収穫した米を必要分だけ残した残り米を売却し諸経費に充当していた。

当時は留守番だけを(主に年寄り等残して)講中の子供等まで当家に集りお粗末な膳を囲んで歓談し親交を深めたものだった。平成8年頃まではその様な形式で継続されていたのだが、それ以後は宴会場を利用して夫婦2人づつ出席で今も続いている。なお、

・安永6年 一七七二～一七八一

・寛政6年 一七八七～一八〇一

・文化5年 一八〇四～一八一八

・明治13年 1月、2月

一八六八～一九二二

当時の経費綴りが残されているが現代人にはほとんど判読出来ない。

6 現存、消滅…現存



庚申講

1 地域名…茂木地区

地域…1 赤羽根・荒地・2 炭釜・浜工場・仲倉

2 区域・構成人数等…

1班 5〜6人

2班 8〜9人

3 時期…1班は年1回当番の都合によって日時を定め連絡する

絡する

2班は60日毎に 年6週

4 期間…1日

5 行事の内容

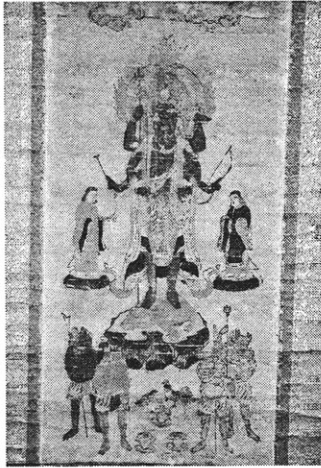
2班の例

当番になった人は60日毎に庚申日の前後（休日）を選んで日・時・会場を定め講中に連絡、会費制で行う。

当日は、庚申様

の掛軸を掲げ、膳を供え、灯明をともして酒宴同世代の数少ない親睦の場でもある。

掛軸は次会の庚申講まで当番の人



のあずかりとする

時には1泊2日の親睦旅行等も計画され楽しんでいる様である。

6 現存、消滅…現存

集落センター近くの塚には、

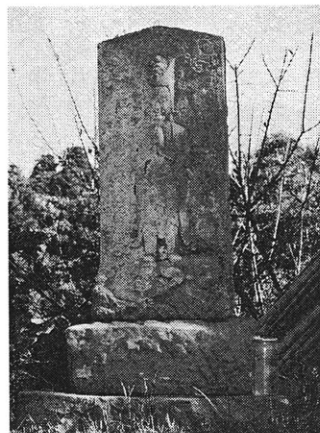
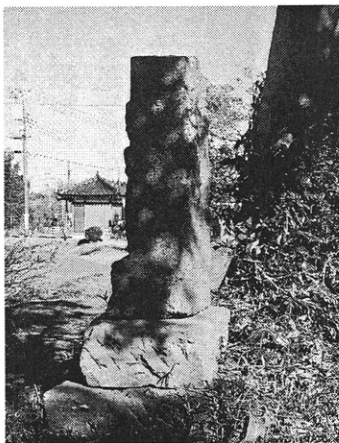
○寛政12年 庚申3月吉日

○安政7年 庚申3月建（茂木講中）

○大正9年 正月13日（庚申供養塔）

と記された石塔（石碑？）が3基と道路沿

いに文字の判読出来ない石塔3基が建立されてある。



観音講

1 地域名…茂木地区

2 区域・構成人数等…

地区全域の比較的若い主婦等の集り

3 時期…正月・8月

4 行事の内容

観音講は、もともと子育て安産祈願のための講であろうが、年2回、正月10日とお盆の17日、昔から日時は変らない。やはり集落センターを中心にして本当番2人と下番2人で前もって話し合い当日は4人が観音堂の掃除、切り花、茶菓の準備等している。

経費は観音様にあがった賽銭でほとんどまかなわれると云う。

その他身内にお産のあった人からの観音様に献上する意味での特別の茶菓子提供等がある。

茂木の観音堂には子年生まれの人守り本尊である千手観音が祀られているときいている。

特別な行事もなく、いつとき若い主婦等の歓談の場であろう。

5 現存、消滅…現存

犬供養

1 地域名…茂木地区

2 区域・構成人数等…地区全域

3 時期…2月

4 行事の内容

観音講と同じ様なかたちではあるが、その昔犬の安産にあやかって行われ出した講であろう。

現在は2月第一日曜日が犬供養の日となっている様だ。当日当番は塔婆供物（いなりずし）中食の準備をして集合を待つ。

みんなで食事歓談。昔から犬の死骸は人に踏まれない様なみつまたに葬る様に伝えられて来たが、自分の家でその様な事があった人は、帰りに線香とおいなりさんをつづつもらって葬った所にたむける。その他特別な行事はない。

5 現存、消滅…現存

素鷲神社の祭礼

- 1 地域名…芝宿地区
- 2 区域・構成人数等…芝宿地区の大人、小人
- 3 時期…7月ごろ
- 4 期間…7月最後の土曜日、日曜日の2日間に行われる
(今年は7月24日、25日)
- 5 行事の内容…

素鷲神社は江戸初期に素鷲^{すまのおのみこ}鳴尊を祭神として芝宿地区西南の地に創祀され昭和45年に移転され現在に至っております。

当神社の祭礼は旧暦の6月18日に開催されておりましたが、最近では7月の最終の土・日曜日に開催されております。昭和30年末頃から祭は見合せておりましたが、国道51号線牛堀バイパスが開通し、夜越川下流域の河川改修が終了し、祭が復活しました。

祭りは先ず境内において神職により「五穀豊穡や家内安全・祭の安全」を祈願して発興式が行なわれた後、境内で川神輿にお清めのために水をかけ揉まれます。そして、川神輿はお神が終わるまで境内に安置されます。又、昨年新装された陸神輿は大人たちによって担がれ、また地区民の技術の結集によって作られた山車は、にぎやかに祭ばやしの音に乗って、歌や踊りが添えられ、子供たちによって地

区内を担ぎ廻されます。祭りの終盤は神社境内に勢揃いして還幸式を行い、隣接している集落センターで鉢洗い(高祓い)を行い、祭は終了します。

- 6 現存、消滅…現存
- 7 その他参考資料
広報いたこVol.113
第48回 シリーズ 潮来市の誇れる文化

大生様祭礼・大生殿神社祭礼

- 1 地域名…大生地区 大生地域
- 2 区域・構成人数等…22人
正副区長 2人 敬神婦人会 10人
総代 5人 奏楽員 7人
- 3 時期…4月ごろ
- 4 期間…14日～1日間
- 5 行事の内容…

○大生様祭礼(元大生城の殿であり、その墓地として祀る)

○大生殿神社祭礼

○杉の葉を奉納し、氏子に配る(大病が無事すぎさったという由来)

- 6 現存、消滅…現存

八坂神社祭り

- 1 地域名…大生地区 大生地域
- 2 区域・構成人数等…
正副区長 2人 神社総代 5人
敬神婦人会 10人
- 3 時期…7月ごろ
- 4 期間…第4日曜日
- 5 行事の内容…
○まんじゅうごおんとして民主が奉納して祝う。
- 6 現存、消滅…現存

大生大神宮祭

- 1 地域名…大生地区 大生地域
- 2 区域・構成人数等…22人
正副区長 2人 神社総代 5人
敬神婦人会 10人 総がく員 7人
- 3 時期…11月ごろ
- 4 期間…13、14、15日の3日間
- 5 行事の内容…
○巫女舞が奉納されている
- 6 現存、消滅…現存
○奏楽員により庭上祭が行われる。約儀式2時間(雨天中止)

宿お掛け講中

- 1 地域名…島須地区 宿地域
- 2 区域・構成人数等…10人
- 3 時期…2月ごろ
- 4 期間…1日間
- 5 行事の内容…

宿お掛け講中は3区に別けて毎年祭事は2月7日に行っていました。お掛けが始まったのは安永10年3月(一七八〇年)と記されており現在で242年が経過したことになる。この間祭事が続いた部落としては最大の祭事で各区当番と下番があつて前日より準備をし、当日は皆んな朝から集りご馳走を頂き懇談をし、夕方より本番の祭事を始めます。

お宮二社、羽黒様、大日様を飾って儀式を行い、膳は猫足膳と二の膳付きで夜中まで飲み交し、下番へお宮二社を送ります。下番ではお宮を受ける新しい箕を用意して受ける当番となった家は一年間二社を祀ります。

現在はかなり改善されて祭事日も2月の休日になり時間も短縮されたが、祭事は従前通り厳粛に行っています。料理などは仕出しや外食になった様です。

部落祭礼 不動明王（不動様）祭礼

- 1 地域名…島須地区 宿地域
- 2 時期…1月ごろ
- 3 期間…1日間
- 4 行事の内容…
部落祭礼不動明王（不動様）祭礼は毎年1月28日に行われる。部落は休日となり、区長、不動様世話人、班長、老人会の皆さんが祭礼の行事ゴマ焚きの準備をします。観音寺住職によりゴマ焚き祭事を行います。お札を作り、餅をついて、各戸へ配るなどして一日の祭礼が終ります。
昔は出商が出て、他の部落の人達も多く集って賑やかに祭りがありました。
- 5 現存、消滅…現存
現在は、祭事も一月の休日となり、集りも悪くなりませんが、祭礼は従前通りゴマ焚き祭事は行っている。

観音講

- 1 地域名…島須地区 宿地域
- 2 区域・構成人数等…8人
- 3 行事の内容…
若い女性達で毎月当番制で朝から集り当番がご馳走を作って一日中のんびりお話しなどしている。観音講は、日頃の労働の息抜きの一つの組織だったのではないかと思う。
- 6 現存、消滅…現存
今は、サラリーマンの人も多くなって、集りも2ヶ月に1回になり集まる人も少ない時もあるが、外食する様です。

庚申講

- 1 地域名…島須地区 宿地域
- 2 区域・構成人数等…5人
- 3 行事の内容…
当番制で当番の都合の良い日に行く。当番宅では掛け軸をかけて供え物をして信仰する。二ヶ月おきに当番が米二合集めて、準備をして夜神事をする。
- 4 現存、消滅…現存
現在は人数も少なくなって当番も米は集めず仕出しで行う様になった。

観音講、犬供養、三夜講、待ち講

- 1 地域名…牛堀一区
 - 2 現存、消滅…消滅
- 観音講は子供の生れる人がいれば今でも信仰するが、その様な家がない。

稲荷様

- 1 地域名…牛堀一区(宿町)
- 2 区域・構成人数等…8人
- 3 行事の内容…
 - ・ 班の行事であり毎年実施
 - ・ 毎年初午に境内の清掃実施
- 二の午に、笠間市の稲荷神社でお祓いを受ける。代表者が参加する。
- 4 現存、消滅…現存

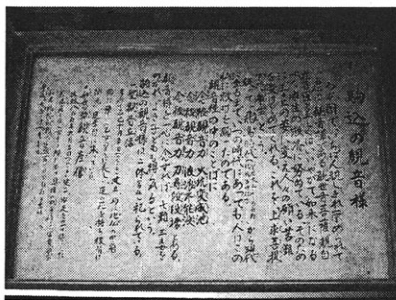
三峰講

- 1 地域名…牛堀一区(牛堀、永山、上戸)
- 2 区域・構成人数等…24人
- 3 行事の内容…
 - ・ 火の神様であるが商店主の集い
 - ・ 年一回秩父市の三峰神社に参拝

- 代表者4人、更に5年毎に全員で参拝(旅行兼)
- ・ 地区ではお堂渡しという行事があり、3月8日と9月8日の年2回行っている
- 4 現存、消滅…現存

駒込の観音様

- 1 地域名…牛堀地区東永山
- 2 区域・構成人数等…12〜13人
- 3 期間…毎月18日縁日
- 4 行事の内容…
 - 毎月18日に全員が集まり、観音経を唱える。観音様を一心に念ずれば「七難三毒」を逃れて良き子供を得られるという。子供が生れる人があれば安産祈願と男子(白)女子(赤)の布を授かり、又、お礼詣りに来る。
- 5 現存、消滅…現存



駒込の観音様（三体、石仏）

一、聖観音像

享保十年巳年十月吉日（一七二五）建立

頭に化仏の宝冠

顔は優しく乙女のように美しい

蓮の花を持ち、後背は輪光蓮華台に乗っている。

二、如意輪観音座像

文政八年酉年九月吉日（一八二五）建立

右足を立て膝にした座法（輪王座）

右手を頬に当て思惟の相（考えている姿）

富貴財宝、知恵福徳成就

六道抜苦が自由自在の意味

行事

・毎月十八日が縁日で十二―三人位の初老の女達が、家庭で手作りの季節のお茶請を持ち寄って集り、茶をわかしてお詣りに来るお客さんを待ちます。

・出産のある家では、お茶菓子と熨斗袋を持ってお詣りに来て、未だ見ぬ子や孫の無事安産を願って、希望により男の子は「白」、女の子は「赤」のお腹帯をお迎えして、皆で観音経を唱え、観音様、鎮守様、金比羅様と七回づつ拝ん

で安産を祈願する。

・無事出産後は、前回と同じ品々を持って、新しいお腹帯と一緒に、お詣りに来る。

・永山地区の観音様信仰は厚く、毎月十八日の日は如何なる天候に限らず集まり、すべての人が経典も見ず、お経を唱える姿は信仰の深さを感じます。

・その他の地区でも、観音講は残っているが、年三回（正月、五月、九月）の都合の良い日に集り、それぞれの地区によって、お詣りする観音様はちがうそうです。



お聖經様

茂木地区の地域行事の一つとして、正月中行うお聖經様（地元住民はおしゆめん様と言ふ）は、行事としては地区の総代等男衆・四〜五人が御輿に似た担ぎもの（中には光圀公が入れた物があり、中に入れた物は見てはならないとのこと。未だに見た事がない）を担いで家々を巡行、無病と家内安泰を祈願する。

お礼は元三大師。昭和二〇年頃に行っていたと記憶している。

※詳しくは、うしほり文化財より下記に転載いたします。



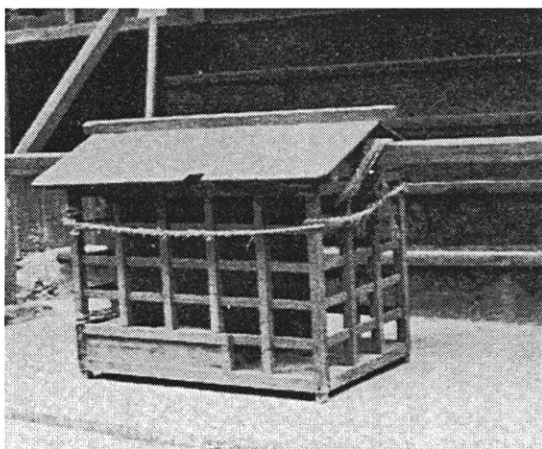
お聖經様の本尊元三やくよけ大師と不動明王
(新春祈禱会)

二本松寺のお大般若

二本松寺の重要な宝物とされているものに『紅葉聖教』と称するものがあるが余りよく知られていない。以前県の社寺課より照会があったこともあり、現在日本には二つしかないと言ふ珍しい書物である。二本松寺は長禄元年静海上人の開基で、初め茂木部落にあり（その跡現在もあり）文禄元年茂木より今の場所堀之内に移転したものである。其の後慶長七年水戸藩の所領となり、元禄四年水戸公深く当山を敬愛し本尊薬師如来を信仰し、高十四石以上の除地と六間四面の二重堂の本堂を建立寄進、一万石の格式と御朱印を賜うた。以後二本松寺は御朱印寺として世に知られるようになった。

徳川家代々の祈願寺となるや光圀公は再三に亘って当山に参られして言う。

元禄八年霜月十五日、京都より定朝法印末流の仏師成記によって阿彌陀如来坐像一躰を寄進安置され、今に



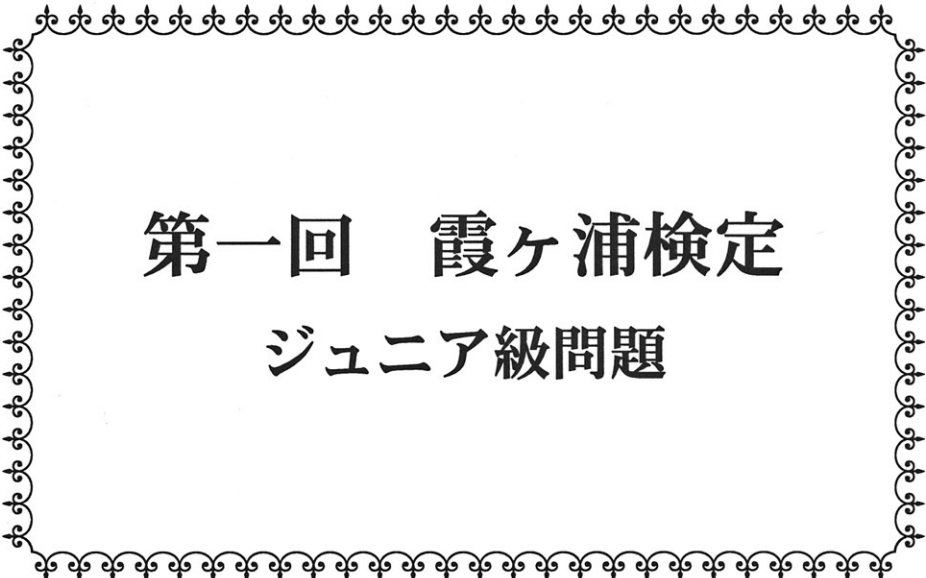
温容慈眼を以て衆生を見給うている。

さて『紅葉の聖教』に付いては水戸公当山に再三参詣された時、これはあらたかな物、又とない宝物なるが故に無闇に開くべきものではないと命じ厳封されて帰還された。以前誰人も見たことはないと伝えられている。たまたま明治に入り無智な輩がこれを開いて見たとか言う。見てはならない物を見たという恐怖の念から半狂乱になるや、発狂して毒を食って死んだ者さえあった。以後『聖教様』はあらたかにして粗末にはならぬと深く信仰されるようになった。

正月二十八日は村祈祷又は春祈祷と称し、『紅葉聖象』の入った箱をかつき、大般若経を奉読し堀之内部落をはじめ茂木部落を戸別に辿り歩いた。但し不浮の家をきらい、庭に入るとピカピカとお光を放ち皆を驚かしたという。(伝承者故平山勘太郎氏)

時代は移りだんだんに古いしきたりはすたれ、今はただお札を世話人が配るだけに変った。そのお札も今は角大師という悪魔除けのお札即ち元三大師(慈恵大師)のお姿である。この行事を(二本松寺の大般若)と言っている。

※うしぼりの文化財 民族資料編 一九七〇年より



第一回 霞ヶ浦検定 ジュニア級問題

社団法人 霞ヶ浦市民協会主催で、第一回 霞ヶ浦検定が平成21年11月29日に茨城県霞ヶ浦環境科学センターにて行われました。

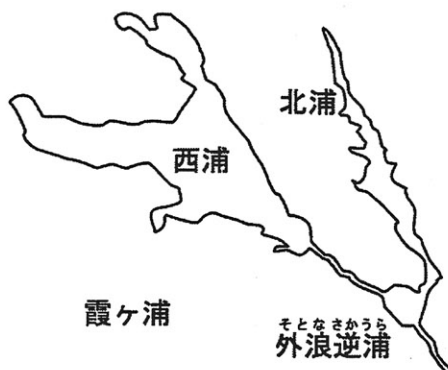
そこで出題されたジュニア級の問題と解答を、次ページにてそのまま載せますので、ご参考にしてください。

第1回霞ヶ浦検定 ジュニア級問題

次の25問の問題をよく読み、3つの答えから正しい答えを選び、**解答用紙の記号**を○で囲んでください。

1、霞ヶ浦（西浦、北浦、^{そとなきかうら}外浪逆浦、^{ひたちとねがわ}常陸利根川、^{おにかわ}鰯川をふくむ）は、どのようにして、できましたか？

- ア) 昔、大きな^{いんせき}隕石が落ちて、できた。
- イ) 浅い海がとじられて、できた。
- ウ) 地震で陸地が落ち込んで、できた。



2、霞ヶ浦（西浦）の形はアルファベットの何の文字に似ているでしょうか？

- ア) Kの字
- イ) Nの字
- ウ) Yの字

3、霞ヶ浦に流れ込む川で1番長い川は、次のどれですか？

- ア) 桜川
- イ) ^{いさみがわ}恋瀬川
- ウ) 利根川

4、霞ヶ浦に流入する川は、56 あります。霞ヶ浦に流入していない川は、次のうちどれですか？

- ア) 小野川
- イ) ^{いさみがわ}恋瀬川
- ウ) ^{きんせき}鬼怒川

5、次にあげた湖の中で、平均水深が一番浅い湖はどれですか？

- ア) ^{びんぼ}琵琶湖
- イ) ^{いなむしるこ}猪苗代湖
- ウ) 霞ヶ浦

6、霞ヶ浦^{りゅういき}流域（降った雨が霞ヶ浦に集まる土地の^{はんい}範囲）に住んでいる人の人口はどれくらいですか？

- ア) 約 298 万人
- イ) 約 98 万人
- ウ) 約 65 万人

7、霞ヶ浦に流れ込む^{はなろうか}花室川の川底や流域では、以前から象の化石が見つかることで知られています。何と呼ばれる象だったのでしょうか？

- ア) ナウマン象 イ) アジア象 ウ) アフリカ象

8、霞ヶ浦に渡ってくる次の野鳥のうち、夏鳥はどれですか？

- ア) コガモ イ) オオヒシクイ ウ) オオヨシキリ

9、次の^{あふく}浮葉植物のうち、絵のような実をつける植物はどれですか？

- ア) ヒシ イ) アサザ ウ) スイレン



10、霞ヶ浦を代表するワカサギは、次のどの、さかなの仲間でしょうか？

- ア) アユ イ) モツゴ(クチボソとも呼ぶ) ウ) ウナギ

11、次のさかなの内、外来魚(外国から来た魚)はどれでしょうか？

- ア) コイ イ) ドジョウ ウ) ソウギョ

12、コイは霞ヶ浦で卵を産んでいますが、どこに産んでいるのでしょうか？

- ア) 卵は水に浮くのでどこでもよい。
イ) 卵は湖底の石に産み付ける。
ウ) 卵は水草やヨシの根元などに産み付ける。

13、霞ヶ浦にはタナゴの仲間が住んでいます。産卵期のタナゴ類はきれいな色をしていますが、きれいなのは次の内どれでしょうか？

- ア) メス イ) オス ウ) 両方

14、霞ヶ浦で、これまでに記録された魚の種類は、およそ何種類ですか？

- ア) 約 30 種類 イ) 約 60 種類 ウ) 約 100 種類

15、夏に霞ヶ浦の湖面に緑色の粉のようなものが浮いていることがあります。この緑の粉をなんと呼ぶでしょうか？

- ア) ミジンコ イ) ウキクサ ウ) アオコ

16、白い帆を張って、ワカサギやシラウオを取る船は何と呼ばれていますか？

- ア) ^{ほりせん}帆引船 イ) さっぱ舟 ウ) ^{たかまがね}高瀬船

- 17、霞ヶ浦のようすが書いてある最も古い記録は何ですか？
 ア) 常陸国風土記 イ) 今昔物語集 ウ) 万葉集
- 18、霞ヶ浦は、縄文時代(約 8000 年前から約 3000 年前まで)にはどうなっていましたか？
 ア) 深い谷だった イ) 広い草原だった ウ) 海だった
- 19、霞ヶ浦の周辺では、縄文時代の人々によって、たくさんの貝が食べられ、その貝殻を捨てた跡が見つかります。この跡を何と呼んでいるのでしょうか？
 ア) 住居跡 イ) 貝塚 ウ) 古墳
- 20、古墳時代の霞ヶ浦の周辺では、土を盛った数多くの古墳がつくられました。この古墳は何のためにつくられたのでしょうか？
 ア) 豪族のお墓 イ) 豪族の家 ウ) 豪族の見張り台
- 21、霞ヶ浦には奈良時代から知られる島がありました。何という名前の島でしょうか？
 ア) 浮島 イ) 大島 ウ) 鹿島
- 22、霞ヶ浦のワカサギを始めとした、小さいさかなの代表的な食べ方は？
 ア) 佃煮 イ) 刺身 ウ) ムニエル
- 23、霞ヶ浦の湖水は、何に最も多く使われていますか？
 ア) 工場で使う水 イ) 飲み水 ウ) 田や畑で使う水
- 24、霞ヶ浦(西浦、北浦、外浪逆浦、常陸利根川、鱒川をふくむ)の堤防の長さを合わせると、約何キロメートルになりますか？
 ア) 150 キロメートル イ) 250 キロメートル ウ) 350 キロメートル
- 25、霞ヶ浦を汚す原因のうち、もっとも大きな割合をしめるものは何ですか？
 ア) 田畑の肥料 イ) 工場排水 ウ) 生活排水

第1回霞ヶ浦検定 ジュニア級

正解と解説

- 1 イ 霞ヶ浦は、江戸時代のはじめごろまでは、浅い海でしたが、その後、土地の隆起、利根川が運ぶ土砂の堆積、海の水位が低下したことなどが重なって、しだいに湖になりました。
- 2 ウ 霞ヶ浦（西浦）の北西を上にして眺めると、その形はアルファベットの「Y」の字に似ています。またザリガニのはさみ、大きく口を開けたカバやワニの顔にも似ています。
- 3 ア 桜川の長さは約 63 km で、霞ヶ浦に流れ込む川では一番です。上流は桜川市で、筑波山のふもとを流れて、土浦市で霞ヶ浦に入ります。
- 4 ウ 小野川は、霞ヶ浦の江戸崎入に流入します。恋瀬川は高浜入に流入します。鬼怒川は、利根川に流入しており、霞ヶ浦には直接流入しません。
- 5 ウ 琵琶湖の平均水深は 41.2 m、猪苗代湖は 51.5 m となっています。これらは、地殻の変動によってできた構造湖です。霞ヶ浦は海跡湖で、平均水深は 4 m とされています。
- 6 イ 茨城県の人口は約 298 万人で、その約 3 分の 1 の約 98 万人が霞ヶ浦流域に住んでいることから、ミリオンズレイクとも呼ばれます。
- 7 ア ナウマン象は、今からおよそ 43 万年前から 2 万 4 千年前の、九州から北海道まで生息していた象です。花室川では、約 3 万年前に生息していたものの化石が見つかっています。
- 8 ウ コガモとオオヒシクイは冬鳥です。オオヨシキリは夏鳥で、ヨシ原で繁殖します。
- 9 ア ヒシは秋になると、トゲのある硬い実を作って越冬します。
- 10 ア ワカサギは背中に脂鱗という鱗を持ち、大きくはサケの仲間ですが、その中でもアユと同じキュウリウオ科に属します。
- 11 ウ ソウギョは、昭和 18 年前後に中国から食用として輸入され、国内各地の河川に放流されました。現在、繁殖しているのは利根川、霞ヶ浦だけです。
- 12 ウ コイの卵は物にくっつく性質があり、湖岸の水草やヨシの根元などで産卵して卵をそれらにくっつけます。
- 13 イ 産卵期に出てくるきれいな色を婚姻色と言い、タナゴの他、いろいろな魚で出てきますが、普通はオスに出ます。ハゼの仲間のジュズカケハゼも産卵期に婚姻色がでますがこの種類ではメスに婚姻色がでます。
- 14 ウ 1955 年までに、淡水魚 41 種、遡河魚 6 種、海水魚 22 種の 69 種が確認されています。その後、常陸利根川の改修に伴う汽水性の魚種が加わり、近年は外来種も増えて、

霞ヶ浦で確認された魚種は累計では 100 種類を上回りました。現在の生息数は約 50 種と考えられています。

- 15 ウ 緑の粉のように見えることからアオコと呼んでいます。アオコは適度にあるときは水中で酸素を作り出すため、よい働きをしますが、水面をすっかりおおってしまつて水中に光が入らなくなると水中で酸素が作られなくなり、アオコが^か枯れて水底に沈むと、分解するために大量の酸素が使われ、酸欠水(酸素が少ない水)の発生の原因となります。
- 16 ア 美しい帆引船は、霞ヶ浦のシンボルとして人気があり、平成百景に選ばれました。
- 17 ア 常陸国風土記には、各地域の地名に加えて「流海」の名称で、霞ヶ浦の様子が記されています。風土記は、奈良時代初めの和銅 6 年(713 年)に出された元明天皇の^{げんめい}「詔」^{みことり}に応じて提出された各国の報告書です。
- 18 ウ 縄文時代の霞ヶ浦は太平洋から海水が入り込み、海が広がっていました。この海にはたくさんの貝や魚が生息する豊かな海であったようです。
- 19 イ 縄文時代の霞ヶ浦はたくさんの貝が生息する海であり、この貝を利用した縄文人によって多くの貝塚がつくられました。
- 20 ア 古墳時代には、地域を治めた豪族が亡くなると、そのお墓である古墳がつくられるようになります。古墳は土を盛ってつくられました。
- 21 ア 浮島は稲敷市にあり、現在は干拓事業によって陸続きとなっています。奈良時代に編集された「常陸国風土記」の中に、湖水に浮かぶ浮島の記述がみられます。
- 22 ア 霞ヶ浦では、明治時代に佃煮の製造がはじまりました。帆引き網漁の普及によって漁獲高が上昇し、佃煮を始めとした水産加工の人気も高まりました。
- 23 ウ 霞ヶ浦の湖水は、各地の用水機場(ポンプ場)で、大量に汲み上げられ、遠くの田畑まで送られます。
- 24 イ 水際線延長は約 252km で、これは日本最大面積を誇る琵琶湖(235km)よりも長く、水戸駅から仙台駅までの距離にあたります。
- 25 ウ 生活排水とは家庭の台所、風呂、洗濯、トイレなどから出る排水のことです。このような汚れの一部は、下水処理場、農業集落排水処理施設、合併処理浄化槽などで除かれますが、残りは 56 本の流入河川を通して霞ヶ浦へ流れ込んでいます。

郷
土
誌

津知尋常小學校

沿革

本村ハ本辻築地ニ村ヲ合併シ組織セリ、往古辻村ハ板久郷ニ屬セシガ轉ジテ延方郷ニ屬ス、築地村ハ八代郷又島崎郷ニ屬セシコトアリ、天正年中島崎二郎高幹地頭タリ後水門佐竹氏代テ之ヲ領ス徳川幕府ノ時水戸徳川氏領地トナリ明治元年水戸藩トナル同四年水戸縣ト改稱同五年新治縣所轄トナリ辻村ハ第二大區小二區築地村ハ第二大區小三區三編入セラル、同八年茨城縣トナリ、辻村ハ第十二大區小三區二編入小區扱所ヲ潮來村ニ置カル、同拾貳年郡區編制ノ際行方郡役所ノ管理トナリ、辻築地ニヶ村ヲ聯合シ戸長役場ヲ辻村ニ置カル同拾七年本村及水原村ヲ合セテ三ヶ村聯合戸長役場ヲ築地村ニ置カル、同貳拾貳年町村制實施ニ當リ二大大字ヲ併セテ今ノ津知村トナル、而シテ町村制實施以來ノ村長左ノ如シ

就職年月	退職年月	氏名
明治貳拾貳年五月	明治貳拾五年三月	榑原式也
明治貳拾五年四月	明治貳拾五年六月	兼平道立
明治貳拾九年八月	明治參拾壹年三月	草野祐七
明治參拾壹年參月	明治參拾貳年七月	秋永典平
明治參拾貳年八月	明治參拾六年八月	榑原彦四郎
明治參拾八年壹月	明治四拾貳年壹月	秋永常七
明治四拾貳年壹月	大正六年壹月	大川春吉

大正六年二月	大正拾年貳月	榑原清衛
大正拾年三月	大正拾四年三月	秋永勇
大正拾四年四月		榑原清衛

區域位置境界廣表

本村ハ行方郡ノ東南端ニ位シ其地形東西ニ狹リ南北ニ長シ東北ハ山野及稲井川ヲ隔テ大生原村及延方村ト界シ南ハ潮來町ニ接シ西ハ岡阜ヲ以テ八代村ニ界シ東西廣キ所ハ拾九町四間ニシテ狹キ所ハ拾四間トシ南北ハ四拾九町拾八間トス。其ノ面積ハ九拾九萬四千三百貳拾七坪（〇、五五方里）ニシテ字名ヲ擧グレバ左ノ如シ

大字名	字名
辻	前川添、カラタチ、黒丸、鷺川、宮下、中辻、横田、後明前、南作、兼平、台、後明越、根崎、樋ノ口、田五郎、塔ノ上、水溜、塔ノ下、中永江、江寺、笹池、牛作、笹池水溜、原新開、渡メ、江寺崎、池下、根ノ塔、前新田
築地	花咲、川尾、向田、久保田、中尾、小橋、又刈、清水、擾和田、立野、足立、明光、台ノ下、深田、向地、平、向野、江路山、源立、上ノ田、東、松葉、後野、伴定免、北野、前新田、原、決渡、吉川、一ノ坪、坊内、貝塚、ムクリ山、島平、小作、後田、子渡、水洗、菱山、大橋、奥ノ田、蟬造、山崎、宮脇、永角、阪下、氣遠路、長作

人口戸數

年	人口		計	戸數	平均一戸人員
	男	女			
大正元年	八六〇	八五七	一七一一七	二八八	五・九四
大正二年	八八一	九〇四	一七八五	二八八	六・一九
大正三年	八九八	九一六	一八一四	二八八	六・三〇
大正四年	九二九	九〇九	一八三九	二八八	六・三八
大正五年	九二七	九一三	一八四〇	二八八	六・三九
大正六年	九三八	九二七	一八六五	二九一	六・四一
大正七年	九〇五	九三九	一八四六	二九三	六・三〇
大正八年	九一〇	九四七	一八五七	二九三	六・三四
大正九年	八四三	八八三	一七二六	三三四	五・三三
大正十年	八九六	九一七	一八一三	三一九	五・六八
大正十一年	八七七	九二〇	一七九七	三二七	五・六七

地勢及地質

西北ハ一帯丘阜ニシテ遠リ本郡中部ノ原野ニ連リ東南ハ平坦ニシテ耕地多リ利根沿岸ノ田野ニ連ル故ヲ以テ東南ニ向ヒ自然ニ傾斜ハ状ヲナセリ稻井川ハ田間ノ諸水ヲ湊合シテ灌漑ノ便ヲ与ヘ延方界ヲ貫流シテ前川ニ注グ前川ハ北利根川ノ支流ニシテ潮來町地先ヨリ分流シテ本村ノ東南ニ沿ヒ流レテ鰐川ニ注グ地質ハ往年地質調査所ニ於テ「マキスフエスカ」博士ノ調査ニ依レバ大字辻ハ第四紀新層壤質砂

土、大字築地ハ第三紀層ノ砂質壤土ニシテ第三紀岩ヲ含ム、大野原ニ接スル部分ハ第四紀古生層ニシテ更ニ之ヲ類別スレバ壤土砂土粘土、腐殖質殖土及壤質砂土砂質壤土及粘質ノ各土ニ細分スルコトヲ得而シテ之等ノ土壤ハ共ニ有機成分ヲ含有スルヲ以テ各種作物ノ生育ニ適應セサルナシ

道路及交通

道路ハ東茨城郡小川町ヨリ千葉縣長子町ニ達スル縣道本村大字辻ヲ貫通ス之レ即チ鹿島街道ナリ。又大字辻ヲ起点トシテ本村中部ヲ貫通シテ北浦諸村ニ通スル一等里道アリ之レ即チ北浦地方ヨリ潮來町及千葉縣地方ニ出ツル要路タリ。又東方ニハ潮來町大字大洲ヲ經テ鹿島郡中島村地方ニ通スル渡津ノ設アリ。又前川川岸ニハ北浦霞ヶ浦利根川、航行ノ汽船發着所アリ、所謂辻ナル大字ノ意義ニ違ハス交通運輸ノ道四方ニ通セリ。

各地への里程

外 縣		内 縣			内 部			地名	陸路里程	旅行 陸路里程	順 汽車里程
銚子町	佐原市	東京都	鉾田町	小川町	水戸市	牛堀	玉造町				
(四四軒一里〇〇丁)	(二二軒三里〇〇丁)	(二〇軒二七里〇〇丁)	(三三軒八里一二丁)	(四四軒一里〇〇丁)	(六一軒一五里一九丁)	(三軒一里二五丁)	(二九軒七里一〇丁)	(六軒二里二八丁)			
一里〇〇丁	三里〇〇丁	二七里〇〇丁	八里一二丁	一里〇〇丁	一五里一九丁	一里一五丁	七里一〇丁	二里一八丁			

本表ハ交通上緊要ノ關係アル者名地ヘノ里程ヲ記入シタルモノトス

道路延長

種 別	國 道	縣 道	里 道	合 計	種 別				
					大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
					五町一〇	五町一〇	五町一〇	五町一〇	五町一〇
					一八町六二三	一八町六二三	一八町六二三	一八町六二三	一八町六二三
					一九町二三	一九町二三	一九町二三	一九町二三	一九町二三

船 隻

種 別	種 別		種 別
	大正七年	大正八年	
計	六二	六八	七三
●日本松五十石未満 魚松・小廻船	六二	六八	七三

汽船旅客貨物及賃錢

年度	會社又 持主名	旅客		貨物		收入賃金	
		出	入	出	入	旅客	貨物
大正七年	日本通船 株式会社	九八五	六五七	五八六〇	四六八〇	六二四	一六九七
大正八年		二四〇〇	一六五〇	六三六〇	四七五〇	三二八	二二六五
大正九年		一三三八五	四二〇〇	三三三〇	二五五五	一九五	三八九
大正十年		一三六五〇	五一〇〇	三八〇〇	三三〇〇	二二三	三三五
大正十一年		一三二〇二	四八〇〇	三五〇〇	二四〇〇	一九六	二八五
合計		一〇	三九	一	三四	一	六七

諸車

種別	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
馬車	一	一	一	一	一
人力車	二	二	一	一	二
荷車	七六	七〇	七四	八二	九〇
自轉車	三九	四三	三四	四八	六七
免稅車	〇	一	一	一	一
合計	一一八	一一七	一一一	一三三	一六二

河川及堤防

大字辻ノ東南部ニ北利根川ノ支流タル前川アリ延方村ヲ經テ鱒川ニ注クモノニシテ北浦ヨリ西浦又ハ千葉縣佐原町及東京市ニ通スル航路ニ當ルヲ以テ大二舟楫ノ便ヲ得シテ、然レドモ一朝東南風ニ加フルニ豪雨ヲ以テセンカ、河水氾濫其慘害ノ及ブ所測リ知ルベカラザルモノアリ、將來利根河身改修ノ竣工ヲ告グルハ或ハ慘害ヲ免ルルコトヲ得ン。

稻井川ハ大字辻東北延方村界ヲ貫流ス此ノ川ヲ利用シ處々ニ堰樋ヲ設ケ灌漑ニ便シ又霖雨ノ際ハ悪水ヲ放流セシム河身ノ所々ニ清水ノ湧出スルアリテ常ニ水量涸レスシテ田間ヲ巡回シ迂回シ東南ニ流下シ字宮下ニ至リテ前川ニ注キ入ル。

池沼

川尾池

此ノ地往昔ハ民有地ナリシカ其後荒蕪ニ屬シ遂ニ官有地トナリ文久二年水戸藩々費ヲ以テ之ヲ掘鑿シ灌漑用水池トナス今灌漑反別辻地ニ於テ拾五町步延方地ニ於テ拾四町步余、水戸藩ノ所轄ノ時ニアリテハ藩費ヲ以テ浚渫シ來リンガ其ノ制絶エテヨリハ土砂流入其池全面積ノ七八分ハ埋没セリ、現時水利組合ヲ設ケテ之ガ管理ヲナシタリシガ大正十二年之ガ拂下許可サレ、村有田トシテ之ガ整地ヲナセリ。

田五郎池

田五郎池ハ大字辻ニアリ、付近ノ地形養魚ニ適スルヲ以テ大正二年九月本村青年會ハ之ヲ縣ヨリ借用シテ直ニ養魚ヲ開始セリ。

氣候

氣候ハ一月ヲ以テ極寒ノ候トス。此ノ月ノ最低温度ハ華氏ノ三十五度前後ナリ。又八月ヲ以テ極暑ノ候トス、此ノ月ノ最高温度ハ九十五度内外ニシテ寒暑共ニ中正ヲ得タルモノナリ。

極寒	華氏三五度	極暑	華氏九五度
初霜	十月下旬	終霜	四月中旬
初雪	十二月下旬	終雪	三月上旬
降雪度數	四回乃至六回	積雪	三寸乃至一尺
風位			
春	最多方位・東	夏	最多方位南
秋	最多方位・西	冬	最多方位北
晴	十二月最多六月最少	雨	五月最多一月最少

風俗

本村ハ二字ヲ以テ組織シ風俗等モ粗ボ相同シキモノ、如シ、ト雖モ大字築地ハ山間ノ部落ニシテ全ク農ナルヲ以テ生活ノ程度モ低ク大字辻ハ交通至便商工業全戸數ノ二割五分ヲ占ムルヲ以テ生活ノ程度モ高シ、然レドモ何レモ性行淳朴ニシテ健証ノ風ナリ皆ヨリ其ノ業ヲ勵ミ絶テ華奢ノ俗ヲ見ス特ニ納税ノ如キハ能ク其ノ義務ヲ重ンジ滞納等ナク成績優良ナルヨリ其筋ヨリ表彰ヲ受ケタリ。

字内ヲ數組二分チ一組戸數多キハ六十六戸少キハ二十八トシ各組ニ長ヲ置キ外ニ對シテハ組ヲ代表シ内ニアリテハ組ニ係ル一切ノ幹旋ヲナス、吉凶禍福ノ場合ニハ富者ハ組内各戸ニ人宛ノ手傳ヲ受ケ來者ヲ饗シ貧者ハ大抵五人組及ヒ親戚ニテ之レヲナスヲ慣例トセリ。

生業

生業ハ大字辻ハ縣道ニ沿ヒテ商家軒ヲ列ネ潮來町ト境界ヲ明ニスルコト能ハス、然レドモ商業專業ノモノハ甚ダ少クシテ農業ヲ以テ生業トナスモノ過半ヲ占ム、又前川附近ノ住民ハ漁業ヲ副業トシ女子ノ副業ハ機織ノ外一般ニ苧織ニ従事ス。大字築地、貝塚、江寺ハ山野ニ住スルヲ以テ皆何レモ農業ニ従事シ且ツ養蚕ノ業亦極メテ盛大ナリ。農閑副業ハ木炭ヲ製造シ又槓薪等ヲ採製シテ販賣ス、女子ノ副業ハ略大字辻ニ同シ。

原住戸数及人口職業別

總計	無職業				合計	其他ノ職業	公務及自由業	交通業	商業	工業	漁業	園藝職	林業及狩獵	養蠶業	飼畜業	農作業			種別		
	計	土地家屋又有價券等収入又ハ活スルモノノ被リ教	恩給等ノ被リ教	其ノ他收職業不詳者												計	自作兼小作	自作		小作	戸数
一三三四					一三三四	二〇	二二	一四二	一二二	七〇〇	〇	〇	〇	四九〇	一一	二四八	一九七	一〇二	四七		
一四三九					一四三九	〇	一	一四二	二二七	〇	〇	〇	九	一〇	一	三三	一五	一四	七	男	
一四七五					一四七五	〇	〇	二五	二二	〇	〇	〇	八	〇	〇	三六	三二	一五	八	女	
三八九八					三八九八	〇	二	四〇	四五	七	〇	〇	一七	一	二	六九	三三	二九	一六	者人計	
四〇四					四〇四	七	四	四	五七	二	〇	〇	〇	〇	〇	三〇	一〇	一三	五	男無	
四三二					四三二	三	二	二	五一	二〇	〇	〇	〇	〇	三	三六	一〇	一三	七	女	
八三六					八三六	一〇	六	六	一〇	四	〇	〇	〇	〇	三	六一	二二	二六	二	者計	
一八四三					一八四三	〇	四	〇	一〇	二五	七	〇	〇	九	一	六一	二二	二七	一	男	
一八七四					一八七四	〇	四	〇	二〇	二四	〇	〇	〇	八	〇	四	三三	二八	一	女	
一七二八					一七二八	〇	八	一	二	四九	七	〇	〇	一	一	五	三	五	二	計	

朱書ハ其業ヲ副業トスルモノノ数ナリ

農業状態

耕地整理ハ從來唯希望ヲ懷ケルノミニテ末何等ノ設備モナ
サス又悪水路ハ大字辻東北部延方村界ヲ貫流スル稻井川ヲ
利用シ處々堰樋ヲ設ケ灌溉ニ便シ霖雨ノ際ハ悪水ヲ放流セ
シム、又字塔ノ下水溜一帯ノ周リ利用シ春季彼岸ヨリ貯水
シテ灌溉セシメ灌溉田(通稱下田)挿秧終ルヲ待チ放水シ
テ植付ヲナルヲ古來ヨリノ慣例トセリ、排水ノ設備ニ至リ
テハ末見ルベキモノナリ唯一二反歩模範的ニ明渠暗渠ヲ設
ケシノミナレドモ將來ハ用悪水路ノ改修及排水又ハ灌溉ノ
設備ヲ完全ナラシムルノ必要アリ、而シテ土地ノ改良ノ方
法ヲ計リ地方ヲ増シ又畦畔ヲ利用シ收益ヲ擧クル等大ニ講
究セザル可ラザル事ナルベシ。

農業ノ設備

農用屋舎

農用屋舎トシテ第一ニ必要ナルハ肥料舎ナリ、目下改良方
奨勵中ニシテ模範的肥料舎五六棟ヲ建設シ其ノ効果ヲ示セ
リ、タメニ各字共二年々増加ノ趣キアリ、其ノ構造ハ六坪
乃至十坪ニシテ木造ノ萱葺ナリ周圍ニハ地上約四十五尺ノ
所マデ壁塗リトシ其他ハ板或ハ藁ヲ以テ掩ヘリ納屋ハ別ニ
更築ナキモ各農家何レモ一棟ヲ有セリ、又ホ小屋物置兼用

ノモノモアリ穀倉ハ板倉若シクワ土藏等ナレトモ間々居宅
物置兼用ノ建物ヲ充用セリ。

養蚕室ハ未専用ノ建物ナキモ何レモ物置又ハ居宅ニ適當ノ
設備ヲ施シ充用セリ。

農用器具

田鋏、畑鋏(三本四本子)万能、馬耕器具、マンガトン
ビ、唐鋏、稻麥刈鎌、草木刈鋏、唐箕万石、篩、箕、稻
麥扱機、臼、摺臼、杵、庭打杵、肥桶、肥俵、ビク畚、
水車、鋤、簾、其他養蚕器具ニ在リテハ特殊ノモノナケ
レトモ近來竹籠ヲ使用スルモノ割合ニ少ク木材、七三ト
稱スルモノヲ引割リ割竹ニ打付ケシモノヲ用スルモノ多
シ。本村内ニ於ケル主要作物中販賣用トシテ米ヲ第一ト
シ、大豆、小麥、蠶苔、大麦之ニ亞ク原料用ハ桑ヲ除ク
外擧クヘキモノナリ食料用ハ蔬菜、蕎麥トス。

栽培地ハ大字辻ヨリ大築地ニ達スル路傍ニ稻井川ニ沿ヘル
モノ大部ヲ占メ其他ハ前川沿岸及ヒ山林又ハ畑ノ間ニ介在
セルモノニテ濕田多ク乾田ハ其ノ一部分ニ過キス地味概ネ
肥沃ニシテ大字築地山間ノ少部分ニハ瘠薄地アリ種類ハ早
稻中稻ニシテ各其ノ半以上ヲ占ム、早稻ニ在リテハ上總コ
ボレ三尺芋大部分ヲ占メ稻ニ在リテハ愛國種最モ多シ晚稻
ハ其ノ跡影スラ認メズ。

農業

農家其一

種別	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
本業	一七九	一七九	一七八	一七八	一九五
兼業	四七	四七	四八	四八	一一
合計	二二六	二二六	二二六	二二六	二〇六

農家其二

種別	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
自作	四七	四七	四九	四九	四九
自作兼小作	九七	九七	九七	九七	八五
小作	八二	八二	八〇	八〇	七二
合計	二二六	二二六	二二六	二二六	二〇六

農家其三 (耕作スル耕地(田畑)ノ廣狹ニヨリ區別)

年度	五段未滿	五段以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上	合計
大正七年	三七	九一	七〇	二一	七	〇	二二六
大正八年	三三	九一	六九	二一	六	〇	二二六
大正九年	三七	九三	六七	二二	六	〇	二二六
大正十年	三七	九三	六七	二二	六	〇	二二六
大正十一年	三六	八三	六七	一六	四	〇	二〇六

農家其四 (耕作(田畑)所有ノ廣狹ニヨリ區別)

年度	五段未滿	五段以上	一町以上	三町以上	五町以上	十町以上	合計
大正七年	七一	二四	四七	二	二	〇	
大正八年	七一	三四	四四	七	二	〇	
大正九年	七五	三四	四三	六	六	〇	
大正十年	七五	三四	四三	六	六	〇	
大正十一年	一五三	二二三	二九	三	三	〇	

農業教育ヲ受ケタル者

年度	農業教ノ農事講習所又ハ之ニ準ズルモノヲ卒業シタルモノ	小學程度	中學程度	高等學校程度	大學程度	農事講習會又ハ之ニ準ズルモノヲ受ケタルモノ	合計
大正七年	一一	一一	二	〇	〇	一七五	一八九
大正八年	一一	一一	二	〇	〇	一七五	一八九
大正九年	二四	二四	二	〇	〇	一七五	二〇一
大正十年	二四	二四	二	〇	〇	一七五	二〇一
大正十一年	二四	二	〇	〇	〇	一七五	二〇一

主要農産物

甘 藷	大 角 豆	豌 豆	小 豆	大 豆	麥			米			種 別		
					計	小 麥	裸 麥	大 麥	計	陸 米		糯 米	粳 米
			二町五	二四町〇	四四町〇	二〇町〇	一一町〇	一三町〇	一三八町三	一五町〇	一一町五	一一二町三	大正 作付反別
			九石	一三六石	八六四石	三四二石	一八四石	三三八石	二、六四三石	九〇石	一九五石	二、三五八石	七年 收穫高
一二町八	一町〇	一町〇	二町九	二四町五	四四町二	二〇町〇	一一町二	一三町〇	一三六町八	一三町〇	一二町〇	一一一町八	大正 作付反別
二五、六〇〇貫	四、〇石	六石	一〇石	一五九石	八六四石	三四三石	一八四石	三三八石	二、八二九石	一三〇石	二四〇石	二、四五九石	八年 收穫高
一三町四	一町〇	一町〇	二町五	二四町五	四五町三	一九町七	一一町三	一四町三	一三九町六	一五町八	一六町〇	一〇七町八	大正 作付反別
二六、八〇〇貫	四、〇石	五石	一〇石	一五九石	七二三石	二六五石	一五八石	三〇〇石	三、六一三石	二七六石	四二九石	二、九一〇石	九年 收穫高
一四五	一町三		二町四	二五町〇	四四町六	一五町一	一四町五	一五町〇	一三九町五	一五町〇	一四町五	一一〇町〇	大正 作付反別
八七、〇〇〇貫	七石		一四石	一七五石	七、〇八〇石	一、九〇〇石	二、〇三〇石	三、一五〇石	二、九二〇石	二二〇石	二九〇石	二、四二〇石	十年 收穫高
					四四町七	一五町二	一三町五	一六町〇	一三九町五	一五町〇	一四町五	一一〇町〇	大正 作付反別
					六四七石	一五二石	一七五石	三二〇石	二、四三四石	六〇石	一七四石	二、二〇〇石	十一年 收穫高

耕地山林

本村内ノ耕地ハ左ノ如シ

田	百二十三町二段四畝二十七步	地價	四万六千二百五十五圓五十二錢
畑	六十四町 四畝 八步	地價	六千六百四十九圓七十九錢
宅	二十三町四段七畝二十二步	地價	四千五百六十三圓五十六錢
山林	百二十町四段二畝 六步	地價	七百十二圓九十三錢

右ノ如クニシテ之ヲ戸数ニ割當ツレバ一戸平均左ノ如シ

田	四段三畝弱
畑	二段一畝強
宅	八畝弱
山林	四段二畝弱

更ニ之ヲ人口ニ割リ當テ全國及本縣本郡等ニ比較スレバ左ノ如シ

地目	全 國	本 郡	本 村
田	五畝弱	一段歩強	七畝弱
畑	五畝弱	六畝強	四畝弱
山林	一段五畝強	一段四畝強	七畝弱

以上ノ如クニシテ比較上下位ニ在リサレバ、今後人口増殖ニ伴ヒ本村ノ探ルベキ方針ハ集約的農業ト他町村土地耕作ト商工業發達トノ方面ニ努力セザル可ラズ。

耕作地段別

種別	大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年	
	田	畑計	田	畑計	田	畑計	田	畑計	田	畑計
自作	四六五	三八八	四八二	二八四	四九〇	三六六	四九〇	三六六	四八五	三三〇
小作	七三三	四三三	七五六	四八九	四〇八	二五七	四八八	二五七	七五四	四七二
合計	三三八	七四〇	三三八	七三三	三三八	七四〇	三三八	七四〇	三三八	七四〇

耕作段別

種別	大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年	
	田	畑計	田	畑計	田	畑計	田	畑計	田	畑計
自作	四六五	三八八	四八二	二八四	四九〇	三六六	四九〇	三六六	四八五	三三〇
小作	七三三	四三三	七五六	四八九	四〇八	二五七	四八八	二五七	七五四	四七二
合計	三三八	七四〇	三三八	七三三	三三八	七四〇	三三八	七四〇	三三八	七四〇

一毛作及二毛作以上作田地反別

年度	一毛田地反別		二毛田地反別		合計
	其他	計	普通裡作	緑肥裡作	
大正七年	一一九	一一九	四三	四三	二二二
大正八年	一一六	一一六	六八	六八	二二二
大正九年	一〇六	一〇六	七	七	二二二
大正十年	一〇六	一〇六	七	七	二二二
大正十一年	一〇八	一〇八	五	五	二二二

地價最高最低及平均額

地目	最		低		平均段金
	場所	段金	場所	段金	
田	字辻字田五郎	六二四二六二	大字辻字前新田	一〇四三二六	三七四三二四
畑	大字辻字中辻	一八四三三〇	大字築地字源立	四四五八二	九四三五六
宅地	大字辻字中辻	三〇〇四〇〇	大字築地字東	一〇四〇〇〇	八三四四二五
山林	大字辻字中辻	〇	大字築地字東	一四五〇〇	五二一
原野	大字辻字中辻	三三〇〇〇	大字築地字東	一四〇〇〇	九七
牧場		一四〇〇〇			
池沼	大字辻字前川添		大字辻字前川添	九〇	九〇
雜種地		九〇			九〇

副業ノ状態

本村ニ在リテハ古来副業ナルモノナカリシカ近来世ノ趨勢ト各自經濟ノ圓滿トヲ計ルタメ養蚕業ノ有利ナルヲ認め漸次増加ノ傾キアリ、又農閑ヲ利用シ製苧ヲ營ムモノ多ク、其ノ所得今ヤ輕視スベカラザルニ到レリ、然シドモ其ノ方法状態等單純ニシテ特ニ記述スベキモノナシ。

副業ノ種類ハ養蚕業製苧業ナレドモ主業ハ米作ニ在ルヲ以テ何レモ米作ニ關係ヲ及サザル範圍ニ於テ各々營ミツツアリ其内製苧業ニ従事スルハ多クハ女子ニシテ原料ハ各自收納セシ蓄ヲ以テ之ヲ織製ス而シテ其ノ器具ハ最モ簡單ナリ、然レトモ製繩機製苧機ノ漸次使用セララルノ状態ニ在

レハ進歩モ亦大ナルモノアルベシ。

養蚕状態

春蚕中最モ多ク飼育スルモノハ又昔、青熟中巢等ニシテ之ガ供給地ハ長野縣最モ多ク、本縣、福島、群馬及北海道之二亜グ購入方法ハ共同購入者割合ニ少ク、各自仲買商又ハ製造家ヨリ購入シツゝアリ、又蚕種ノ貯藏法概ネ貯藏器ニヨルト雖モ或ハ土藏又ハ居宅中寒暖ノ差少キ處ヲ撰ミ吊ルシ置クモノアリ。

飼育方法ハ大字築地ニアリテハ稚蚕共同飼育ヲ行へ成績良好ナリ又共同外ノ飼育者ノ雖モ専心研究シ改良ヲ加へツ、アルヲ以テ失敗者少ナリ産額モ亦少ナカラス、桑葉ハ自園栽植ノモノニテ供給シ得ルヲ以テ敢テ他町村ヨリ供給ヲ仰カズ又繭ノ販賣方ハ何レモ乾燥場ノ設備ナキヲ以テ概ネ生繭ニテ販賣ス故ニ時々損失ヲ被ルコトアリ、乾燥場設置奨勵ノ必要アリ。

販賣地ハ自村或ハ潮來町、牛堀等ノ仲買人ガ信州製糸家ノ出張所等ナリ、蚕業ハ農家副業中最モ有望ナルヲ以テ逐年増加ノ傾キアリ。殊ニ秋蚕ニ至リテハ農閑コレヲ營ムコトヲ得ルヲ以テ最近殊ニ盛大ニ向ヒツゝアリ、將來一層ノ奨勵ト農家ノ自覺トニ俟タバ一候ノ進境ヲ見ルニ至ラシ。

畜産ノ状態

畜産トシテハ馬ヲ駄馬用ニ飼育シ或ハ近來朝鮮牛ヲ以テ之ニ代用スル者モ少カラズ、又鶏及家鴨ノ多キハ數十羽、少キモ二三羽飼育セザル農家無シ。

近來、馬耕、牛耕等盛ニ行ハルヽノハ喜バシコトナリ。

小作ニ関スル事項

小作地ノ種類ハ田・畑・桑園ナリ。契約年限ハ二年及五年ナレドモ小作料ノ怠納ナキ限リハ期限ニ拘ハラズ小作セシム締約期節ハ田地ニ在リテハ多クハ十二月畑地ニ在リテハ夏毛作収了ヲ待チ概ネ十月ニ締約ス小作料納付ノ期限ハ田ハ毎年十月ヨリ十二月ノ間ニ納メ畑ニアリテハ毎年十二月中ニ納ム豊凶ニ依ル小作料ノ増減ニツキテハ本村及潮來町延方村地主ニ於テ組織セル積徳講ナル一ノ組合地主會アリ毎年十月集會シ豊作ニハ増額セザレドモ凶作ニハ減額ノ歩合ヲ決定シ該決定額ヲ以テ納付セシムル例アリ、又怠納者ノ如キハ稀ナルモ敢テ強請スル等ノコトナク證書ヲ換ヘ漸次償還セシムルコトトス、小作地ニ係ル、諸費用ハ大抵地主ニ於テ符負担シ又小作地ニ永久改良ヲ施シタル場合ハ地主ニ於テセシ時ハ増收ノ歩合ニ應シ小作料ヲ増額スルモ小作人ニ於テセントキハ増收ノ歩合ニ應シ大抵据置年期ヲ付

シ期明ケニ至リ増額スルヲ例トス小作地ヲ賣買シタル時ハ旧地主或ハ小作人ヨリ新地主ニ交渉シ依然耕作スルモノ多ケレドモ場合ニヨリ返地スルモノアリ、作物ニ於テハ制限スルモノヲ見ス小作人獎勵及保護ノ方法ハ末何等ノ説ケ無シ地主小作人間ハ交誼親密ニシテ不調和等ヲ見セレトモ、茲ニ小作者ノ自ヲ相戒メザル可ラザルコトハ近來小作者ニ於テ自作米ヲ粗悪米ト交換シ納ムルコトアリ斯如キハ將來地主小作人間ニ不調和ヲ生スルノ因ヲナスヲ以テ之ヲ矯正ノ方法ヲ講スルハ目下ノ急務ト云フベシ

小作料歩合

壹反歩ニ對スル地主小作料ノ所得歩合ハ地主ニアリテハ田、五、或ハ四、五畑桑園トモニ二、九五、小作人ニアリテハ田、五、或ハ五、五、畑、桑園トモ七、〇五ノ割合ナリ。

繭 其 一

大正十一年				大正十年				大正九年				大正八年				大正七年				年度
合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	種別
																				飼
																				養
																				戸
																				數
																				掃立枚數
八二	四二		四〇	七八	四〇		三八	一〇〇	五一		四八	六一	一一	六〇	五一	一一三	五六	一九	四八	掃立十枚以上
								一〇〇											一	掃立五枚以上
								一〇一											四九	掃立五枚未滿
																			四九	計
三二五	一二五		二〇〇	三七〇	一八〇		一九〇	一三七	七一		六六	七五	一四九	七五	七四	一六七	七三	二二	七二	掃立枚數

繭 其 二

大正十一年				大正十年				大正九年				大正八年				大正七年				年度
合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	合計	秋蚕	夏蚕	春蚕	種別
																				數
																				玉繭
																				屑繭
																				計
																				繭
																				玉繭
																				屑繭
																				計
																				繭
																				玉繭
																				屑繭
																				計
																				單
																				價
																				價
三〇	三〇		三〇	三〇	三〇		三〇	三〇	三〇		三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	繭
二八五	二八五		二八五	二八五	二八五		二八五	二八五	二八五		二八五	二八五	二八五	二八五	二八五	二八五	二八五	二八五	二八五	玉繭
一五五	一五五		一五五	一五五	一五五		一五五	一五五	一五五		一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	一五五	屑繭
九〇	九〇		九〇	九〇	九〇		九〇	九〇	九〇		九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	九〇	計
一七五	一七五		一七五	一七五	一七五		一七五	一七五	一七五		一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	一七五	繭
七〇	七〇		七〇	七〇	七〇		七〇	七〇	七〇		七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	玉繭
三〇	三〇		三〇	三〇	三〇		三〇	三〇	三〇		三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	屑繭
三〇	三〇		三〇	三〇	三〇		三〇	三〇	三〇		三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	計

農業改良

農業ハ本村業務中ノ本体ニシテ先祖是ヲ以テ斯ノ村ヲ經營シ子孫亦是ヲ以テ斯ノ村ヲ經營セザル可ラス。而シテ將來斯業ノ改良ニ至リテハ、牛馬耕ヲ將勵シ以テ努力ノ節約ヲ圖リ或ハ副業ノ研究ヲナシ以テ經濟ノ圓滿ヲ期シ或ハ耕地整理米作ノ改良、肥料ノ改善研究等此等諸問題ヲ舉グレハ枚舉ニ暇アラズ然レドモ農村問題ノ基調ハ農民ノ自覺奮起ニアリ宜シク村民一致之カ自覺ト奮勵トニヨリ改善ノ實ヲ舉ゲザルベカラス。

勤儉貯蓄

泰山ハ土壤ヲ讓ラズ是ヲ以テ高シ河海ハ細流ヲ擇ハス是ヲ以テ大ナリト蓋シ微ヲ積ヲ積ミ大ヲ謂ナリ、勤儉貯蓄モ亦此旨趣ニ外ナラス而シテ勤儉ハ人性ノ德行ニシテ個人ニアリテハ一家ノ幸福ヲ増進シ又一國ニ在リテハ其富力ヲ増殖ス蓋シ個人ノ富ト國家ノ富トハ其起原全力同一ニシテニアルモノニアラズ勤ニ因テ之ヲ得儉ニ因テ之ヲ積ミ以テ不時ノ用ニ供スルト同時ニ常ニ經濟ノ圓滿ヲ致シ人ヲシテ自尊自重ノ念ヲ強カラシメ自主獨立ノ精神ヲ旺盛ナラシ是ヲ以テ内ニ在リテハ身ヲ修メ家ヲ齊ヒ外ニ在リテハ公益ニ努メ順良ノ民タラシムルノ効果アリ其德亦大ナリト云フベキナリ。

牛馬耕ヲ爲シ及爲サザル田畑反別

種別	大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年	
	田	畑計	田	畑計	田	畑計	田	畑計	田	畑計
牛馬耕ヲナスモノ	三町	二七町	二町	二五町	二町	二五町	二町	二五町	三町	二〇六町
牛馬耕ヲナサザルモノ	三七町	七三町	三三町	七三町	三三町	七三町	三三町	七三町	三三町	七三町
合計	二三八	一〇〇	二三八	一〇〇	二三八	一〇〇	二三八	一〇〇	二三八	一〇〇

耕作用牛馬

種別	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年
牛	一	一	三	三	八
馬	六五	六五	六〇	六〇	六四

桑畑及茶畑反別

種別	大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年	
	反別	見別計	反別	見別計	反別	見別計	反別	見別計	反別	見別計
桑畑	七八町	一五町	九三町	八〇町	一五町	九三町	八〇町	一五町	九三町	八〇町
茶畑	〇六町	〇四町	〇一町	〇六町	〇四町	〇一町	〇六町	〇四町	〇一町	〇六町

副業ノ奨励

本村唯一ノ副業ハ製苳養蚕養鶏ニシテ今統計調査ノ示處ニヨレバ製苳産額ハ一ケ年六千五百円、養蚕業ハ四千八百円、養鶏業ハ二千二百円ニシテ此等副業ハ我村經濟ヲ補フ尠少ナラス殊ニ製苳業ノ如キニ至ニテハ原料ハ自家收得ノ蓄ヲ以テスル故其量豊富且資本金ヲ要スルコトナク、又其作業ハ農閑或ハ風雨等野外ニ於テ労働スルヲ得ザル時ヲ利用スル故農家ニ在リテハ恰當ノ副業ト云ハサルヲ得ス、然レトモ唯遺憾ニ堪ヘサコトハ未タ最モ有利主便ナル之ガ器械ノ發明ナキ事ニシテ若シ之ガ適當ナル發明アラシニハ一層ノ産額ヲ見ルニ至ラン、唯目下ニ在リテハ品質ヲ優良ニシ價額ヲ高メ販路ヲ廣クルニ在ルノミ又養蚕業ハ比較的強力ナル労働ヲ要セス老幼婦女ヲシテ從事セシムルヲ得ルヲ以テ奨励スベキ餘地アルモノノ如シ、尚近年繭相場ヲ見ルニ稍ニモスレバ收穫時季ニアリテ下落ヲ來タン爲ニ折角ノ苦心慘憺ノ結果豊作ノ繭モ價格低下ノ爲メ豫期ノ收穫ヲ得ル能ハサル有様ナルヲ以テ將來養蚕組合ヲ設ケシメ乾燥場ヲ置キ資金要望ノモノニハ低金利ニ融通セシメ適當ノ時期ヲ見テ賣却スル等此等奨励ノ道ヲ設ケ且ツ飼養者ヲ奨励セバ優ニ現在ノ五割増收ヲ見ルハ容易ノ事ナルベシ、又養鶏業ハ種類ノ改良ヲ計ラバ二割ノ増收亦難事ニアラサルベシ。

水産

主要ナル漁場

名稱 浪逆浦

漁業戸数及漁業者

種別	戸数		種別
	本業	副業	
計	七	七	大正七年
漁業者	七	七	大正八年
計	九	九	大正九年
漁業者	九	九	大正十年
計	八	八	大正十一年
漁業者	八	八	
計	一	一	
漁業者	一	一	
計	四	四	
漁業者	四	四	
計	五	五	
漁業者	五	五	
計	一	一	
漁業者	一	一	
計	五	五	
漁業者	五	五	
計	六	六	
漁業者	六	六	

主ナル水産物

種類	大正七年		大正八年		大正九年		大正十年		大正十一年	
	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格
種類	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格	数量	價格
鯉	四二	一〇五	四五	一七一	四五	一七一	五〇	二〇〇	五〇	二五〇
鰻	二五	九五	二六	三三四	二六	三三四	三三	二七二	四〇	三四〇
鱒	一三〇	八四	一四〇	三三六	一四〇	三三六	一五〇	三〇〇	一七〇	三四〇
鮎	三〇	二四	二五	五五	二五	五五	三〇	六六	三五	八七五
鮒	一〇〇	八〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	二二〇	一五〇	一五〇	一五〇
其他魚類	六四	八〇	八〇	八〇	一〇〇	六八	六一	七〇	七〇	七〇
其他介類	二二〇	二四〇	二四〇	二四〇	一五〇	二五五	二五五	二五五	二六五	二四七五
藻類	二二〇	二六	二六	二六	二六	二六	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
合計	五七二	一、二〇〇	一、二五二	一、二五二	一、二五二	一、二五二	一、五五〇	一、五五〇	一、五五〇	一、五五〇

ふるさと潮来

第十七輯〜二十六輯まで

ふるさと潮来第十七輯 (文部大臣賞受賞記念 特輯号)

文部大臣表彰受賞を記念して……………山澤 幸次
特輯号によせて……………今泉 和

「ふるさと潮来」文部大臣賞受賞

特輯号の発刊によせて……………渡辺 保男

創立三十周年に憶う……………丹羽 克夫

「ふるさと潮来」特輯号発刊に寄せて……………篠塚 平一郎

文部大臣賞を祝して……………藤島 一郎

郷土史研究会のあゆみ

潮来のあゆみ

郷土史関係の人物史

発足当時の思い出

父のこと……………藤岡 健夫

ふるさと潮来 第一輯より

創立二十五周年記念事業

ふるさと潮来一号〜十六号まで

鹿行文化章受賞者・宮本茶村文化賞受賞者

宮本茶村文化章規定 (内規)

ふるさと潮来第十八輯

教育界をとりまく変遷……………小沼 善治

大樹を仰ぐ……………草野 豊

天狗党とエセ天狗……………土子 幸三

潮来の万葉古歌……………大塚 信也

ある人生の記録……………窪谷 益雄

私の街道……………小沼 勇

アヤマ園の裏方……………香取 好郎

濱野家の祖 由井國光とそれ以前の先祖について……………濱野 元市

大衆小説と潮来……………小沼 正司

伊能鳳後について……………窪谷 悌二郎

久保田万太郎と潮来……………小沼 正司

洲崎の人物列伝……………尾崎 健夫

子供の頃の私の四季……………藤岡 健夫

古 高 郷……………郷土考より

二十世紀の人物史 (潮来市)……………山澤 幸次

延方地区の人物史 (幕末〜明治)……………郷土考より

＼小川町 (栃木) の資料館と

鳥山町の山あげ会館を訪ねて……………事務局

ことばシリーズⅠ……………窪谷 浩

江戸時代年表 (二六〇三年〜一八六七年)……………窪谷 浩

本年度の展示会について……………山澤 幸次

市役所玄関前の松について……………山澤 幸次

ふるさと潮来第十九輯

一、歴代会長を偲んで

画伯 竹内栖鳳と藤岡鑛二郎 …………… 藤岡健夫
 亡父への記憶 …………… 立野勝三

三代会長窪谷 章氏のこと …………… 窪谷悌二郎

二、戦前戦中のこと

子供のころの古高 …………… 草野 豊

延方青年団洲崎支部の記憶 …………… 尾崎 廣

戦前戦中のこと …………… 若 槿 の ぶ

私の昭和史 …………… 内 野 健 造

半世紀前の出會ひ

緊張する昭和十五・六年

一青年の弁論大会の主張 …………… 塚 本 昌 明

私たちの北方領土調査 …………… 窪 谷 益 雄

“サクラサクラ” 兄達の戦争 …………… 坂 本 照 子

追 憶 …………… 坂 井 勝

三、戦後のこと

エネルギー革命とその波紋 …………… 土 子 幸 三

絵巻物さながらの鹿島神宮の

“御船祭” についての考察 …………… 今 泉 元 成

ことばシリーズⅡ …………… 窪 谷 浩

皇居勤労奉仕の思い出 …………… 相 田 春 江
 国指定文化財

茅葺き民家の写真展より …………… 山 澤 幸 次

四、その他 明治時代のこと

明治十五年より明治二十六年迄

居家普請中 人名帳 …………… 濱 野 元 市

五、文 芸

俳句と潮来 …………… 小 沼 正 司

六、牛堀地区の石物調査「前編」

牛堀地区「河津・永山・堀之内・茂木」

「水郷潮来」のあけぼの	今泉元成	葛飾北斎と「常州牛堀」	今泉元成
県指定常陸大生古墳群について	藤島一郎	— 浮世絵芸術九十年の世界を覗く —	小沼正司
明治維新後の延方村	山澤幸次	潮来・水郷を描いた画家たち	小沼正司
近代に潮来水郷を訪れた文人墨客	小沼正司	紀行文潮来	小沼正司
医学に貢献した泉 仙助博士	小沼正司	近代延方村の誕生	
布施耕一郎氏の手紙	内野健造	— 明治二十二年町村制実施時の郷土 —	山澤幸次
延方青年団の記憶	尾崎廣	(続) 洲崎の人物列伝	尾崎廣
勤労働員、空襲、友の死、その後	今泉利右衛門	井村武達校長先生と延方小学校のその昔	石井芳子
雑記	若槿のぶ	天狗党 大川九兵衛の仇討ち	内野健造
戦時中の思い出	相田春江	文久元治の乱・佐原騒擾記	
墨で塗られた教科書	坂本照子	— もう一つの天狗騒動 —	窪谷悌二郎
戦時を今に(回想のうた)	草野豊	掃苔録鈔 — 妙真記 —	窪谷悌二郎
いにしへの歴史をたずねて		遺稿	
(視察研修に参加して)	吉川俊	利根遊水地帯の二十世紀	
民間信仰の諸相	高森良昌	— 明治・大正・昭和の百年史 —	桂三武郎
牛堀地区の石物調査「後編」			
牛堀地区「芝宿・横須賀・台上戸・宿・古宿・赤須」			

ふるさと潮来第二十二輯

地方自治に生きた

「治水の父」須田誠太郎	藤原 鏝四郎
潮来の稲荷神社の創建の時を問う	今泉 元成
月讀神社社歴について	秋永 守
切手になった潮来と周辺	小沼 正司
歴史と小学唱歌	相田 春江
私はタンゲンであった	

——海軍新兵から復員まで——

戦いに明け暮れて	小沼 善治
第二次世界大戦中の暮らし	窪谷 益雄
学童疎開のこと	山澤 幸次
潮来の想いで	谷 玄明
引揚船の「葬送の汽笛」	横浜市 土屋 百合子
ゆとり教育とエデュケーション	坂本 照子
さらば八町庚申講	土子 幸三
あるひの史跡散歩	尾崎 廣
	窪谷 悌二郎

参考資料

昭和一二年度・潮来町町勢要覧	山澤 幸次
----------------	-------

ふるさと潮来第二十三輯

潮来の由来

追筆	飯 笹 義 信
孝子寅松を偲ぶ	飯 笹 義 信
二十三夜尊のしおり	孝子寅松顕彰会
延方相撲余話	秋永 守
水郷と作家 川端康成	尾崎 廣
特別掲載 ふるさと潮来 第一号	吉川 俊

ふるさと潮来第二十四輯

郷土から見た熊野信仰	今泉 元成
病と共に頑張りました！私の四十年	関戸 斐子
続潮来紀行文（そのI）	小沼 正司
郷土史の中の謎	小沼 正司
方言について	山澤 幸次

参考資料 水雲橋の名称由来

潮来町の河岸
市内史跡探訪

稻荷山周辺の町内と

あやめ河岸散策の今昔……………増田三郎

続・潮来のあゆみ(明治百年)……………植田敏雄

廃藩置県

郷土史年表

ふるさと潮来第二十五輯

平成二十年度 天狗党史跡めぐり

正式隊耄碌爺徘徊記……………窪谷悌二郎

天狗党西上勢……………窪谷悌二郎

庚申山登頂……………今泉清衛

二十三夜尊堂……………秋永守

江戸後期

水郷潮来地方における結婚の一考察……………石津藤好

潮来と潮来ぶしの広がり……………小沼正司

続 潮来紀行文(II)……………小沼正司

新しい発見を求めて……………吉川俊

船頭小唄

私の潮来史……………岡本保美

ふるさと潮来第二十六輯

海軍水兵 宍戸甚三郎氏訪問記

元連合艦隊司令長官 山本五十六從兵

その一——和平を求めて……………土子幸三

山本五十六元帥の人生訓……………窪谷悌二郎

小堤少尉と永沼推進隊……………高田清

農村教育・郷土教育の父

明 間 卯之介

——師弟同行・率先垂範……………藤原鉄司郎

歴史を顧みて——百年前の事項から……………窪谷悌二郎

神社の今昔と私達……………土子幸三

郷土史の中での謎……………小沼正司

花の潮来浜……………吉川俊

日本の民家……………山澤幸次

ふるさと潮来第二十七輯

平成二十三年三月三十一日 発行

茨城県潮来市潮来

編集者

発行者

潮来市郷土史研究会

印刷所

尙かつら印刷



表紙写真：観音寺山門（上戸）

潮来市立図書館



22311187839